平成28年度

ともに…

園内研修・保育実践記録集

湯沢認定こども園

はじめに

保育所全体の保育の質の向上を図るために実践を通した園内研修を行うことは、保育の専門性が高められ、職員の保育や子どもに対する共通理解をはかり、それが園において同じ目標のもと保育士をはじめそこに働く職員全員が協力・協調して保育する力を高めることに繋がります。

今年度の園内研修は、3歳未満児フロアーと3歳以上児フロアーに分かれ、両フロアーとも指導保育士を中心として行いました。

3歳未満児フロアーでは
「気になる子　気になる保護者」～保育者の関わりと変化～
その子どもと保護者、保育士の気持ちをテーマとしました。

3歳以上児フロアーでは
「気になる子の対応について」　～環境や関わり方を考える～をテーマとしました。

実践記録については、共通のテーマではなく、個々に取り組んだことについて作成しました。

園内研修・保育実践記録「ともに…」に寄せて

湯沢認定こども園は、開園から１年が経過しようとしています。４つの保育園を統合し広い湯沢町の各地域から園児を一カ所に集め、さらには、預かり時間の拡充や休日保育を実施するなど、保育行政としては町政が始まって以来初めて経験する大きな変化の年となりました。開園後、夏ごろまでは、運営する我々も日々の対応に追われ、園児たちにも落ち着かない様子が見られるなど、毎日が慌ただししかったことが思い出されます。

しかし、これだけ大きな変化の中にあって、初年度としては比較的順調なスタートを切ることができたのは、保護者の皆さまからのご理解、ご支援のおかげであることはもちろんですが、なにより保育士のみなさんが頑張ったからに他なりません。統合により、保育士一人が担当する園児数が増え、早番、遅番の勤務、休日保育にも対応しなければならない状況は、本当に大変だったと思いますが、皆さんがその大きな変化に対応してくれたからこそ、初年度を乗り切ることができたと感じています。

さて、現在、日本における子育て支援を取り巻く状況は、大きな変化の中にあります。湯沢町でも、利用できる子育て支援サービスがここ数年で大きく変わりました。こうした変化にともなって保護者の子どもへのかかわり方にも大きな変化があることは、保育士の皆さんも肌で感じていると思います。

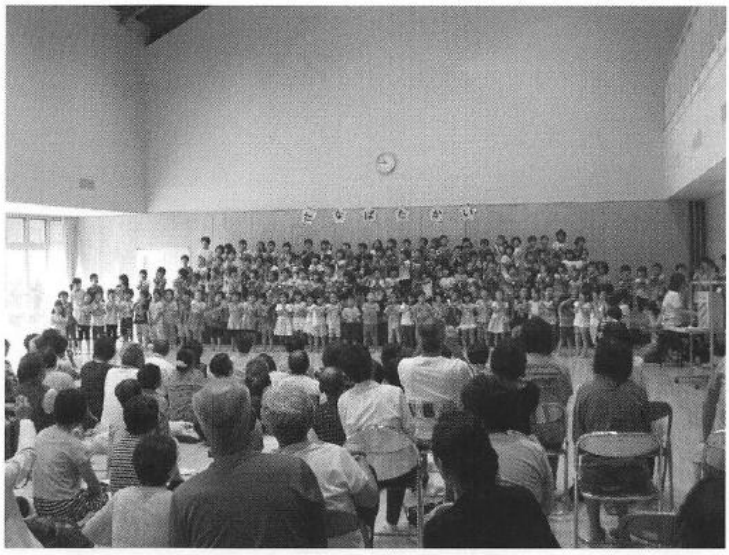
本来は、家庭とこども園にはそれぞれの役割があって、お互いが協力・連携しながら子どもを育むことが大切なのですが、今そのバランスが崩れつつあります。総合子育て支援センターでは、家庭に本来の役割を担っていただくために、このバランスを取り戻すための施策（保護者支援）に取り組んでいますが、同時に、こども園における保育の質を高めていくことも大切なことです。

「ともに…」が単に園内研修・保育実践記録をまとめたものに終わらず、こども園の保育の質を日々高めていくための貴重な「教科書」となることと、家庭とこども園が正に「ともに」協力・連携することで、湯沢町の全ての子どもたちが健やかに成長してくれることを心から願っています。

平成２９年３月　子育て支援課長　富沢　雅文

目次

保護者に寄り添うために	園長	山田信江
こども園初年度の行事を有意義に行う	副園長	腰越和子
コミュニケーションの積み重ね	副園長	南雲智子
考えて動く	5歳児担任	小幡美穂
活動しやすい環境を整える	5歳児担任	髙橋さえ子
子どもの力を信じて	4歳児担任	上村嘉奈子
縄跳び大好き	4歳時担任	髙橋淳也
はじめまして、こども園	3歳児担任	髙橋紀子
安心して過ごせるこども園へ	3歳児担任	松本佳奈絵
視覚化して伝える	3歳児担任	二階堂彩香
行ってみよう！やってみよう！	2歳児担任	髙井美雪
「やだやだ」に付き合って	2歳児担任	桑原路子
新しいスタートで再確認から学ぶ	1歳児担任	阪上恵美子
一人ひとりの気持ちをしっかり受け止めて	1歳児担任	原澤達也
手作り玩具で手を動かして遊ぼう	0歳児担任	角谷美代子
発達に合わせた手作りおもちゃ	0歳児担任	青木　歩
今求められる子育て支援とは	子育て支援センター	久保田めぐみ
離乳食・アレルギー食を安全においしく	調理員	角谷静子
新しい給食室	調理員	角谷初美
大量調理に変わって	調理員	小宮山康子
こども園のスタート	調理員	腰越　学



2016/8/15

保護者に寄り添うために
苦情・相談窓口から

山田　信江

こども園では利用者からの意見・要望等に適切に対応する体制を整えている。相談・解決責任者（園長）と相談受付担当者（副園長）及び第三者委員を設置し、苦情の解決に努めている。苦情・相談窓口に関しては、入園式の時に説明して玄関に掲示し、保護者（利用者）へ周知している。

統合前から、各園で窓口を設置していたものの、保護者からの要望・意見は直接クラスを担任している職員への相談が多い。クラス担任で解決されることは、その場で対応し園長・副園長への報告で終わるが、内容によっては相談受付の副園長や園長を交えての相談もある。

今年度 4 園が統合したことにより 200 人近くの子ども達と保護者になり、保護者からの苦情等も直接は言いにくい、という感じを受ける。以前は「ねえ　先生聞いて！」と話しかけてくる保護者もいたが、直接受付担当者までは伝えにくいようだ。

そんな中、6 月に保護者と副園長との雑談の中で、「統合して、色々な意見があるみたいよ。だけど、直接は言えないみたい。意見箱などがあるといいかも。」という声が聞かれた。実名で意見を言うのにも抵抗がある人もいるようだ。

そこで、玄関先に意見箱を設置し、園だよりでも周知した。

＜意見箱・記入用の用紙・ペン＞

なかなか、その場では書きにくいようです。玄関先に設置も抵抗があるかもしれない。

＜寄せられた意見　件数＞

	件数	内容
8 月	4 件	・保育内容について ・保育サービスについて ・保護者同士の交流について ・未満児入園について ・離乳食について
9 月	3 件	・誕生会について ・保護者と職員のコミュニケーションについて ・保育内容について
10 月	3 件	・危機管理について ・クラス名簿について ・年間行事について
11 月	1 件	・給食について

＊意見箱は事務室の前や廊下に置いてはいけません。「入れているところを先生に見られるかも」と思ったら入れられないからです。廊下の曲がり角や柱の陰、階段の踊り場、保護者用のトイレなど、死角になる場所に置けば入れやすくなるでしょう。　参考文献　子どもの「命」のまもり方…掛札逸美著

意見箱への「意見・要望」に対しては、園だよりに内容と対応を記載し保護者へ伝えた。

統合後のデメリットの部分についての意見

① 先生とのコミュニケーションがとりにくい。
統合して、今まで当たり前にしていた連絡や声がけ、先生との関わりなど全てが悪くなった気がします。

② 未満児入園がなかなかしてもらえず、対応が不十分だった。
離乳食の説明と実際の提供が違い残念。

③ 湯沢町では自営サービス業が多いのに現状では自営の家庭サポートが不足していると感じる。

等が寄せられた。行政との連携で対応・解決をすべきことは、できる限り対応していきたい。
「保育士とのコミュニケーションに関して」は統合後も、職員としては今までと同じ気持ちで接していたつもりではあるが、余裕が持てなかったのも事実である。全職員に周知し今後も、「笑顔」「挨拶」「声掛け」を心がけていく。

保育に関してのプラス意見

① 年少児、片栗粉で感覚遊びをしたと伺い、自宅ではなかなかしてあげられないので、ステキだなと感じました。他にも大きな紙に思いきり絵を描く、新聞紙や広告いっぱいビリビリ等家では散らかしてしまうようなことをしていただけると嬉しいです。

② たくさん楽しい行事があり楽しかったです。

等の意見は、職員にも伝え、保育内容の工夫をし、保育の志気を高めていきたい。

また、「意見箱」ではないが、副園長や園長、担任への直接意見等も今年度は12件ある。内容としては、職員対応が4件、園行事1件、通常保育1件、その他6件である。ただし、担任で対応し解決された例もあげれば、数は増えると思われる。保護者だけでなく、地域からの意見もあり、考えさせられることもある。これからもこども園に対しての、ひとつひとつの声を大切にしていきたい。

最後に、保護者からも地域の方からの意見・要望もやはり言いやすい環境、つながり、信頼関係が一番大切なことがわかる。統合後の4．5月当初は本当に余裕がなく、登降園時の玄関にも立つことが出来ずに保護者との関係も希薄で、お互いに伝えたいことも伝えられない状況だったことを反省する。

一日の始まりは登園時の挨拶・笑顔であるので、子ども達への声掛け及び保護者への会話のきっかけをみつけ、良い一日の始まりを心がけたい。降園時も子どもたちの少しの変化も保護者に伝え、子どもたちが園で元気に過ごしている様子を話し、家庭での様子も聴き、よりよい関係を築いていきたい。

こども園初年度の行事を有意義に行う

腰越　和子

＜はじめに＞

今年度、4園が統合され認定こども園1か所になり、園児の人数、保護者の人数が大幅に増えた。今まで年間行事は、4園でそれぞれの地域性を生かして行ってきたが、状況が大きく変わった。

昨年度それを見据えたうえで多面的に話し合い、既に大きい行事については案を決めてあった。

こども園初年度の行事を行うにあたり、子ども達が楽しく取り組むこと、成長の節目となること、そして保護者や地域の人にこども園をアピールすることを目的とした。

＜行事の取り組み＞

今年度4月初めの職員会議で、年間行事について確認、決定した。

発表会や運動会に参加する保護者の人数もかなり多くなることを予測して行事を計画した。3歳以上児と3歳未満児に分けて行う行事、今までは3歳未満児が参加していたが今年度は参加しない行事等についても話し合った。

そして、各保育園共通の行事と独自行事をほとんど全て行うことにした。

月	各保育園共通の行事	各保育園の独自行事	今年度の行事
4月	入園、進級のつどい	お花見(中)	開園式・入園式
5月	人形劇鑑賞 親子遠足	さつま芋作付け（土、湯、神）	人形劇鑑賞 親子遠足（3歳以上児、各年齢ごとに分けて行う） さつま芋作付け
6月	絵本読み聞かせ 交通安全教室 歯みがき指導		絵本読み聞かせ 交通安全教室（4、5歳児各1回） 歯みがき指導
7月	年長児お楽しみ会 高齢者運動会(5歳児参加)	七夕祖父母会（土、湯、神）	年長児お楽しみ会 七夕祖父母会 高齢者運動会(4歳児参加)
8月	川遊び	権現様お祭（神）	川遊び
9月	運動会 敬老会(5歳児参加)	保護者会主催お祭り（土、湯、神）	運動会 敬老会(年長児参加)
10月	遠足 さつま芋堀り	ハロゥイン（土）	3歳未満児親子遠足 交通安全教室（3歳児） さつま芋堀り 保護者会主催秋祭り ハロゥイン
11月	歯みがき指導 年長親子食育・クッキング	収穫祭（土、神、湯）	歯みがき指導 収穫祭

月	各保育園共通の行事	各保育園の独自行事	今年度の行事
12月	発表会		3歳未満児発表会 3歳以上児発表会
1月	そり遊び 年長親子歯みがき指導		そり遊び 年長親子歯みがき指導 年長親子食育・クッキング
2月	そり遊び		そり遊び
3月	お別れ会 卒園式	お茶会(湯)	お茶会 お別れ会 卒園式

※（　）書きがある行事で、(土)は土樽保育園、（湯）は湯沢保育園、（神）は神立保育園、（中）は中央保育園の略。

地域へのアピール、子どもの声を届けるという面から各園の独自行事もなくさず、取り入れた。そのため、今年度は今まで以上に行事が多くなった印象だ。

今まで、高齢者運動会、敬老会には年長児が、年度ごとに各保育園持ち回りで参加してきた。しかし、今年度からは持ち回りというわけに行かないので、年長児の負担を考え高齢者運動会には年中児が参加し敬老会には年長児が参加することにした。

発表会は3歳以上児と3歳未満児とで日を分けて行った。3歳以上児の保護者には赤ちゃんの姿を見てもらいたいし、3歳未満児の保護者には大きい子ども達の成長した姿を見て欲しい。それができないのは残念だが、3歳未満児の発表会では親子一緒に手遊び等を楽しむことができたし、「3歳未満児の発表の数が増えたので良かった」という保護者の声があった。また、保護者の来場人数、発表時間の長さ、場所の広さ等を考えると今年度の方法は良かった。

運動会は3歳以上児のみの参加にした。1学年４０～５０人が順に出場するので、予想以上に時間がかかった。子どもの実態を踏まえた競技内容を設定し、当日に向けて活動を積み重ね、子ども達の自信につなげることができた。

＜反省と今後への思い＞

行事を考える基準として大切な二つの視点があると思う。一つは子ども達にとって有意義に行う視点、もう一つは地域へのアピールであり、保護者と町の方々にこども園の教育・保育を知らせ見て頂くという視点だ。

子どもたちにとって有意義に行う視点では概ね達成したと思う。各担任が、保育課程と年間活動計画をもとにそれぞれの年齢に合わせて日々の保育を進め、行事に向けての活動を創ってきた。子ども達は喜んで活動に参加し、行事を通して成長が見られた。

しかし、特に年長児にとっては行事が多く、多少負担があったと思う。行事に追われず、子どもが自主性を発揮して好きな遊びを積み重ねるという経験を大切にしたい。そのような視点は忘れないようにしたい。そのためにも来年度以降、さらに保育士間で意見、思いを出し合い、話し合って、行事を選んだり内容を変えたりして行きたい。

一方、地域へのアピールという視点から考えると、各保育園が独自で行ってきた行事を統合後も取り入れ、職員も子ども達も頑張ってきた。いろいろな地区に出向く行事では、広く日時や内容を知らせるという点で足りない点、反省点があったので来年度に生かしたい。少しでも多くの町の方々にこども園の教育・保育を知らせ、こども園と子ども達の良き理解者として共に子ども達を育むことができるようにと願って、取り組んで行きたい。

コミュニケーションの積み重ね

南雲　智子

□ はじめに

今年度から４園統合し認定こども園となった。クラスは担当しないが、200名前後の子ども達、保護者、時には祖父母と関わることになる。緊張感の中で新年度を迎え、様々な新しい業務を行っている時のことだった。「こども園の先生達は、何時になったら玄関にいるの?」「玄関で挨拶が出来ないほど忙しいの?とっても感じが悪い。保護者も言わないだけでそう思っていることがわからないの?」と先輩保育士から面と向かって言われた言葉に愕然とした。その言葉は、目先の業務に気を取られ、当たり前のことを疎かにしていることと、一番大切なことを忘れているということに気づかせてくれた。保育士は、子ども達、保護者、祖父母を含め相手との心地よい関係を作っていく必要がある。そして、良い関係を作る努力を積み重ねていかなければならない。それなのに…。「感じが悪い」これでは良い関係作りにはならない。何から始めたらいいのだろうか?その時、１５年程前、子育て支援センターを２年間担当した時のことを思い出した。

子どもの名前を覚え、名前を呼んで受け入れる

クラス担任ではなく、子育て支援センター担当になった時、先輩保育士から「町の子ども達全員があなたの担当」と言われた。支援センター業務の中に、未入園の親子がふれあう広場があった。名前もわからない初めて会う親子から、私が親しみを感じてもらえるには、子どもの名前を覚えることだった。参加者名簿に書かれた名前から、子どもの名前を覚え、顔と名前を一致させることを心がけた。そして、次の機会に親子が広場に参加した時は、私から「○○ちゃん。おはようございます」と笑顔で挨拶をして受け入れた。お母さんとも時間をかけて何気ないお喋りからスタートし、少しずつお母さんの方から育児の悩みなどを話してくれるような関係作りが築けた。

こども園の保護者、祖父母にとっても、保育士から「○○ちゃん、おはようございます」と子どもの名前で挨拶されることは嬉しいことだろう。そこで、こども園全ての子ども達の名前を覚え、名前を呼んで挨拶することを自分の目標にした。子ども達、保護者との良い関係作りを積み重ねていく一歩としての小さな目標だった。

こども園の一日は朝の登園時から始まる。早朝からの延長保育の子ども達を、シフト制で、その日の早番の職員が受け入れる。そして、保護者が送迎する子どももいれば、バス通園の子どももいる。必ずしもクラス担任が受け入れるわけではない。４月、子ども達は、クラスカラーの名札をつけて登園していたので比較的覚えやすかった。顔と名前が一致しない時は、間違った名前で呼ぶことは失礼になるので、子ども達が履いて来た靴をしまう時に、こっそり靴箱に貼られている名前で再確認した。親子と子どもの名前が一致し、自信をもって「○○ちゃん。おはようございます」と挨拶ができるようになった。バス通園の子ども達を迎える時も、バスから一人ずつ降りる時、名前を呼んで挨拶することを大切にしている。時々、バス添乗をする時もあるが、同様に一人ひとりの名前を呼んで挨拶をしている。

欠席した子どもが登園して来た時

病気などの理由で欠席していた子どもが登園して来た時には「○○ちゃん。元気になって良かったね」の一言を心がけてきた。そして保護者にも「大変でしたね。元気に登園できて良かったですね」などと声をかけるようにした。

園児の誰が、どんな理由で欠席していたかの、欠席連絡の電話の記録を把握していることで、休んでいた子ども達を温かく受け入れることもできるようになった。また電話での応対にも、回復し登園することを待っている気持ちを、伝えられるように心がけている。

先生・・あのね

親子と朝の挨拶を交わし、子ども達を玄関で見送ったり、クラスに送り出した後、玄関先で保護者や祖父母と何気ない会話をすることも増えた。「先生。鞄の中で、水筒に入れたお茶がこぼれちゃって、泣いていて言うこと聞かなくて・・」「毎日、帰り道にお菓子買ってと言って困っているんです」「朝から泣いて悪いことばっかりして本当に他の家の子はいい子なのに家の子は・・」「感染症の情報が少ないから何とかして欲しい」など、ちょっとした愚痴だったり、要望だったり、時には苦情だったりもする。こども園の内部では気づかないことを伝えてくれることもある。

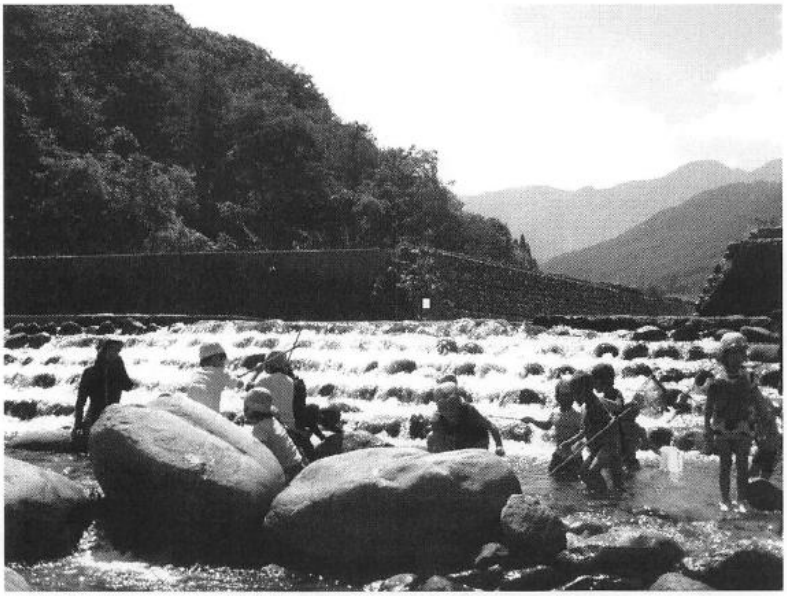
玄関先での保護者や祖父母との会話の中で、不安や不満、悩みなどを感じとり、保護者や祖父母の発するサインを見逃さないということは、子どもの背景を知り関わっていくことにも繋がると感じている。保護者や祖父母の不安や不満、悩みを敏感に子ども達は感じるからである。キャッチしたサインや情報を、園長や副園長、保健師、担任と共有しあうことで向き合えることもある。

□ おわりに

挨拶という基本的で当たり前のコミュニケーションを積み重ねることが信頼関係を作る一歩になる。その一歩になる心構えが、子ども園スタート時に私には欠けていた。大切にしなければいけなかったことに気づかせてくれた、先輩保育士に感謝している。今年度も残り僅かとなったが、これからも200人の子ども達、保護者、祖父母と温かい挨拶を交わしていきたい。そして、こども園2年目の春、新入園児「30名」と、初めて子どもが入園する保護者を温かく迎えたい。

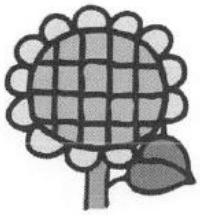
5歳児

ひまわり組　ゆり組



夏の川遊び・・・
川の中を歩いたり“かじか”
探しに夢中　自然と友だち

ひまわり組とゆり組勢揃い
みんなで食べると美味しいね



考えて　動く

小幡　美穂

「湯沢町の教育・保育」に書かれている、５歳児年間指導計画の中に年間目標がある。私たち保育士はその目標に向かって、１年を通し創意工夫をしながら保育に取り組んでいる。

しかし、実際子どもの姿を目の前にしてみると目標としていることに近づくには、なかなかスムーズにはいかないのが現状だ。だからと言ってレベルを下げることはできない・・・子ども達に知らせないといけない事や身につけて欲しい事は沢山あり、日々の保育を工夫し、葛藤しながら取り組んできた。

（５歳児　年間目標）

＊ 色々な人との関わりや体験を通して基本的生活習慣、社会生活に必要な態度を身につける。
＊ 集団の中で自分の思いをしっかり出しながら友だちと協力しあう。
＊ 新しい事に挑戦する意欲と最後まで粘り強くやろうとする力を身につける。
＊ 様々な体験を通して心情を豊かにし、表現する事の大切さを味わう。
＊ 一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。（養護）

何度か年長クラスの担任になり、ここ数年の子ども達の姿で気になる所の類似点は

・人の話を静かに聞けない。
・指示待ちが多い。（例）次は何をすればいいの？　何をして遊べばいい？
・毎日の事が積み重ならない。　・諦めが早い。　・出来ないのは人のせいにする。

挙げればまだまだ出てくるが、この様な傾向が多いような気がする。

今年も例に挙げた様な姿が目立ちなかなか改善されない中、子ども達が自分で考えて行動できるようになるにはどうすればいいのか、人の話を静かに聞けるようになるにはどうしたらいいのかを考え実践してみることにした。

≪今日のリーダー≫

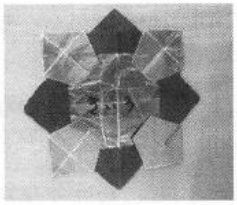
各グループ（４～５人）に、毎日日替わりでリーダーを設けることにした。

リーダーの仕事は、

・活動前にグループ全員そろっているかの確認をする。いなかったら呼んでくる。
・フッ化物をいつから始めるか決める。（グループ全員揃わないと始めてはいけない）
・制作などで人数分を数えて材料を取りに来る。　・食後の机上を拭いたか、汚れていないかチェックし、やっていない人がいたら知らせる。

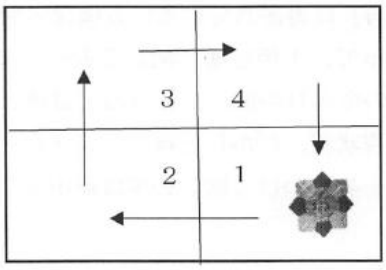
子ども達は、「リーダー」という響きがカッコよくすぐに興味を示し「やりたーい」「今日は私！僕！」とあちこちから声が聞こえた。そこで、リーダーを決めるときの約束を知らせてみることにした。

◎ リーダーは毎日変わり、順番でする事。　◎ いばらない事。
◎ リーダーの話をよく聞く事。
◎ みんなの話を聞いて話し合って決める事。一人では決めない。
◎ リーダーになった人はメダルを机に挟んでおいて終わったら次の人に渡す。



リーダーメダル

（例）



※ 保育士が気を付けたこと
◎ 子ども達に任せる。
◎ 見守りながら、必要最低限の助言、アドバイスをする。（困難度A）
＊なるべく見守りながら・・・と決めても我慢が出来ず、ついつい指示を出してしまうことから困難度Aとした。
◎ 指示を減らす。

リーダーを決める時に、静かに話し合いながら決めるグループ、じゃんけんで決めるグループと様々だった。話し合うことで、いつもはほとんど関わらない子や話をしない事でも、お互いの声を聴いたり喋ったりと繋がりが出てきた。内気だった子は、リーダーの日には「○○君、机拭いてない　呼んでこなくっちゃ」と張り切ったり、一人いなければ「また、いないよ～」と呼びに行ったりする姿もみられた。しかし、子どもなので忘れん坊リーダーや、みんなを待たせるリーダーもいたがその日はその子が１日リーダーなので周りの子が教えてくれたり、黙って待っていたりしていた。

小さいグループの中のリーダーだが、なる事で少しは我慢をし、友だちの話を聴く機会を持ち、自分の思いを言葉で表現する事を重ねていきながら、人から頼られ、今何をしなくてはいけないのか考えるきっかけになったと思う。また、トラブルがあった時や困ったことがあると友だち同士集まって相談する姿も見られ、大きな進歩が見られた。

就学まで残りわずかとなってきたが、少しでも年間の目標に近づけるように、子どもの自主性を育てるにはどうしたらいいのか、私たち保育士も意識をしながら子ども達が自分で気付けるような工夫や環境を整えていかなければいけないと思う。保育士が気を付けることで、困難度Aとした所はクラスの臨時職員にも周知し、取り組むようにした。しかし、日が経つと“見守り”から“指示”になり余計な声掛けをした部分もあったように思う。

我慢が足りないのは自分自身なのかもしれないと反省し、“子ども達を信じて待つ”ことを心に止めながらこれからも取り組んでいきたい。

活動しやすい環境を整える

髙橋　さえ子

＜はじめに＞

新しい園舎での生活がスタートし、早一年が経とうとしている。年長児クラスは就学を見据え、新たに一人用の机を使用することになった。机が置かれていない時は広く感じた部屋も、人数分の机が入ったことでとても狭く感じられた。部屋の広さや形が決まっている中で、どのように机や棚を配置すれば動線がよくなるだろうか？成長や活動に合わせ何度か配置替えをしながら、子どもにとっても大人にとっても活動しやすい場所になるよう、その時々に応じた環境を整えていきたいと思った。

＜容易に移動できる可動式の利点を生かした棚の配置＞

～背中合わせにした棚を部屋の中央付近に配置～

棚の上面を教材準備や保育者の作業台として使用することが出来、子どもの動きにも目を向けやすく瞬時に対応しやすかった。しかし、中央付近に配置したことで部屋内がより狭くなり、腰を下ろした活動（遊びや話を聞く）の場の確保が難しいと感じることも多かった。

～棚をＬ字に置きテーブルと組み合わせる～

少しの配置替えで雰囲気が変わり気分転換も図れたが、給食時の配膳課題が生じたり、死角となる場所が出来たりした。

～限られた壁の側面を利用する～

開閉ドア部分と棚の間に多少の隙間が生じるが、壁際に棚を配置したことで部屋を広く使用できるようになった。

どこに棚を配置すれば活動しやすいのか、様々な場所での配置を試みたが、やはり部屋を広く使いたいことから壁際へ配置することにして現在に至っている。子ども達は新しい環境の変化にも柔軟に適応してくれた。部屋の使い方（配置等の環境設定）は人それぞれ違うが、生活しやすい環境が整うことで様々な面において安心感も生まれてくると思っている。それは物的環境だけでなく、人的環境も影響してくるためしっかりと考え子ども達と向き合っていかなければならないことでもある。

＜用途に応じた机配置＞

ブロックや粘土遊び等の遊び場のスペースも確保する為、机を置く場所としては部屋の半分ほどの広さに抑えたいと思った。手洗い場の位置や部屋の形状を考えて、窓側に机を配置することにした。

①グループ活動　☆机を向かい合わせた状態にする。

友だちと話し合ったり協力し合ったりするグループ活動の中で、互いの表情が見え会話も弾むが、話を聞く等の静かにする場面で落ち着かないことも多かった。椅子の向きだけを変えて話し手の方を見るという約束を伝え、静かになった状態で保育者は話を進めてい

くことを意識しながら行うようにした。

②食事時間　☆机を向かい合わせた状態にする。(写真 A)
☆□型等に机を並べて友だちの顔が見えるようにする。(写真 B)
☆感染症予防として机の向きを一定方向にしたり、隣り合う机を離したりする。

向かい合うことで楽しく会話し食事ができる反面、食事時間がかかってしまうことも多かった。また、机を向かい合わせた状態から□型に並べ替えることにも時間がかかったが、普段と違い会食を行っている気分で食事が出来た。また一人用机の利点を生かして、感染症が流行した際には飛沫感染の予防策として一定方向を向いて食事することができたことは良かったのではないかと思う。

③制作活動　☆机の向きを一定方向にする。(写真 C)
☆机を向かい合わせた状態にする。(写真 D)

机の向きを一定方向にすることで、話をしている人へ視線を向けやすくなり制作等でも比較的集中して行えるようになった。また、話し手側からも子ども達の表情がよく見え、全体を把握しながら制作を進めることができた。活動の内容によっては、机を向かい合わせて制作に必要な道具を共同で使用したり、互いに教え合ったりすることも大切であると考える。

写真 A

写真 B

写真 C

写真 C

写真 D

＜おわりに＞

子ども達は一人用の机を“自分の机”として喜んだ。友だちにお手紙を書いたり、ちょっと絵を描いてみようかと座ったりする時でも、自分の場所に腰を下ろしている。机がその子にとっての落ち着く場所の一つになっているようだ。

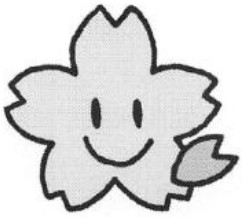
今年度は部屋の使い方（配置等の環境設定）を考えながら保育を進めてきたが、自分だけの考えにとらわれ過ぎず他保育者と相談し参考にしながら、より活動しやすい環境を整えていきたいと思う。

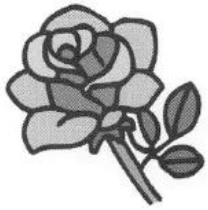
4歳児

さくら組　ばら組

いっぱい練習した“縄跳び”を発表会で
披露しました。ドキドキ・ワクワク

ちょうちょ結びの練習中です
あれ?
これでいいのかな・・・



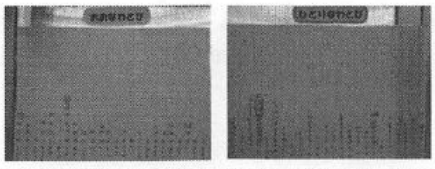


子どもの力を信じて

上村 嘉奈子

〈はじめに〉

今年度こども園では、子どもたちの「体力づくり」に力を入れて、保育することが課題だった。そこで年中児は鉄棒と縄跳びに力を入れて保育してみようと、年間の計画に入れて取り組んできた。51 人という大人数の保育の難しさを感じながら、試行錯誤して取り組んできた。中でも縄跳びは、私たちの予想をはるかに超えた、子どもたちのすばらしい姿が見られ、感心と驚きの連続だった。今回は、その取り組みについて紹介したい。



〈縄跳びの取り組み〉

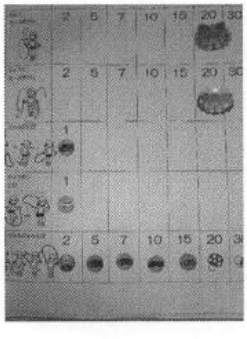
～その１ 記録を表にした～

人数が多いので、子どもたちの様子を把握するために、跳んだ回数を表にした。表にすることで、子どもたちの様子が一目で分かり、声をかけやすくとても良かった。また、子どもたちの意欲が出たり、競争心が湧いたりするのではないかと考えた。予想通り子どもたちは「○回跳んだ」「○回跳んでみたい」「がんばるから見ていて」「○○ちゃんより多く跳びたい」と目標をもち、取り組むようになった。あいている時間があると「縄跳びしたい」とやる気も見られるようになった。縄跳びの表は、お迎えの時に、お家の人にも見てもらえるように、廊下の目につく場所に貼った。お家の人に見てもらい、褒められて喜んでいる子、また、表を介して「○○ちゃんすごいねえ」と声を掛けられ、嬉しそうにしている子もいた。大縄跳びから、一人縄跳びに移行したおかげで、ジャンプのリズムをつかみ、スムーズに一人縄跳びができるようになったと感じる。

～その２ 縄跳びカード～

一人縄跳びが楽しく取り組めるように、縄跳びカードを作った。

【黄色カー



・片手ロープ回し

・両手ロープ回し

(片手、両手に縄跳びをもって回しながらその場跳び)

・ジャンプ跳び

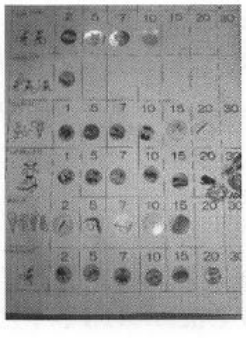
(縄を回さず下に下した縄を跳ぶ)

・両足跳び(縄を回して一回跳ぶ)

・ぴょんぴょん跳び(その場両足跳び)

レベルアップ

【青カード】



・その場駆け足跳び

・走り縄跳び

・後ろ跳び

・したまわしとび

(片足の足首に縄を結び回転させてもう片方の足で縄を跳ぶ)

・あや跳び

・けんけん跳び

黄色カードでは、基本のロープ回しと、ぴょんぴょん跳びが 30 回跳べることを、最終目標とした。そして少しレベルを上げて青カードでは、子どもたちがやってみたいと思うような、後ろ跳びやあや跳びを入れてみることにした。そうすることで、早く青カードになりたくて、一生懸命頑張ろうとする姿が見られた。カードはやる気をなくさないように、少しずつ跳ぶ回数を増やし、シー

ルをもらうことで、子どもたちがあきらめないで取り組めるように考えた。あっという間にクリアし、どんどんレベルアップする子もいるが、中には全くやらず、一枚もシールを貼っていない子もいる。やる気のある子とない子との差が大きく、どうやって進めていったらよいのか悩んだ。そこで、①みんなで取り組める時間を作った。②ほんの小さなことでも良いところを見つけて、褒めるように心掛けた。③褒めて、励まして、保育士が盛り上げ、楽しい雰囲気作りを心掛けた。わたしたちの作戦が上手くいき、子どもたちがどんどん上達し半分以上が青カードとなった。子どもたちを見ていると、「跳べるようになりたい」という気持ちで、一生懸命取り組んでいる姿が見られる。友だちの刺激を受けながら、それぞれの目標に向かって、縄跳びに取り組んでいる姿を見ていると、楽しく取り組むということはこういうことなんだと勉強させられた。

無理だと思っていた「あや跳び」も出来るようになった子がいる。「できる」を積み重ねて、「楽しさ」を感じ、夢中になって力を伸ばせる活動の素晴らしさを感じている。

～その３　手紙の配信～

家庭にも縄跳びに取り組んでいることを手紙で伝えた。子どもたちの頑張っている様子や、楽しそうな様子、また表を写真に撮って載せたり、クラスのチャンピオンを紹介したりして、お家の人にも意識してもらえるようにした。すると、「家でも兄や姉に教えてもらいながら跳んでいます」「褒めたら喜んで跳んでいます」など連絡ノートを通して、家庭での様子が聞かれるようになり嬉しく感じた。園での子どもたちの頑張りや、私たちの感動を発信することによって、保護者の意識が変わり、子どもたちが伸びていく様子が目に見えてわかった。何よりも大好きな人に認められ、褒めてもらうことが、上達する一番の近道であるということを強く感じた。今現在、大縄跳びは最高 122 回、一人縄跳びは 130 回跳び、新しいチャンピオンが日々生れている。

～その４　発表会への取り組み～

子どもたちの頑張りを保護者の方に見てもらいたくて、縄跳びを発表会の劇の中に取り入れた。ステージの上では上手く跳べないかもしれないが、どうしても子どもたちの頑張ってきた姿を見てもらいたくて、保護者にそのことを承知していただき、場を設けることにした。子どもたちは、大好きなお家の人に観てもらうということで、もっと上手になりたいと、ますます力が湧いてきたようだった。跳べなかった子が、発表会を目前に跳べるようになった時は、クラスの仲間が自分のことのように喜び、感動したことを覚えている。みんなに観てもらい、褒めてもらって、自信がついた発表会となった。

〈おわりに〉

縄跳びを初めて４ヶ月になる。未だ下火にならず頑張っている子どもたちである。難しいからできないだろうと、初めから決めつけず、子どもたちの力を信じてやってみることの大切さを、改めて感じた活動だった。運動することが「気持ちが良い」「楽しい」「もっとやってみたい」という意欲を大切にして、もっともっと運動したくなる環境を作っていきたいと考えている。

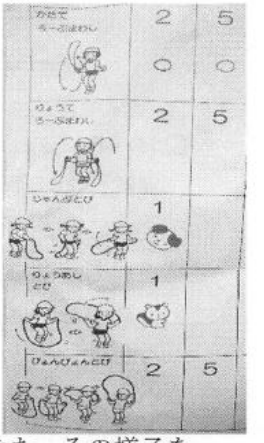
園だけではできないことも多いが、保護者を巻き込みながら行うことによって、子どもたちのできることが増えてくる。日々の保護者との関係が、上手くいっていたからこそ、出来たのではないかと思っている。これからも子どもたちの良い育ちの為に、保護者とのつながりを大切にしていきたいと思う。

縄跳び大好き

髙橋　淳也

□はじめに

今年度からこども園になり、さくら組（４歳児２６人）の担任になった。最初の頃は、すべてが初めての事ばかりで、子どもたちも私自身もバタバタとしていた。徐々に園の流れにも慣れ始めてきた頃、年長児がホールに出て縄跳びをして遊んでいた。その楽しんでいる様子を見ていた何人かの、クラスの子どもが「僕もやってみたい」「私もやってみたい」と言い、見よう見まねで跳ぼうとしていた。しかし上手く跳ぶことができず、すぐに諦めかけていた。せっかく、跳んでみたいという意欲が出たのに、それを終わらせてしまうのはもったいないと感じた。そこで、どうやったらその子どもたちが楽しんで跳べるように進めていけるのかを考えた。また、縄跳びには【リズムを養う】【手や腕を鍛える】【持久力を養う】といった幼児期において大切な要素がたくさん詰まっている。そういったことも含めて、クラスの皆にも縄跳びに対して興味を持ってほしかったため、意欲を持っていける様な取り組みを実践した。



□縄跳び活動の実践

縄跳びカードを作った。[片手ロープ回し][両手ロープ回し][ジャンプ跳び][両足跳び][ぴょんぴょん跳び]の順番で、いきなり跳ぼうとするのでなく、跳ぶまでの動きを順序立ててカードにしてみた。早速子どもたちに見せると、「なにこれ！」「やってみたい」と、とても興味を持ってくれた。また、達成感を味わえる様に、出来た回数の所にシールを貼り、徐々に上達していくのが目で見てわかるようにした。シールは保育士が見て、その子が出来ていたら貼るようにした。その際出来たら十分に褒めるように心掛けた。子どもたちも、褒められてさらにやる気を見せていた。

取り組みを始めてからまもなく、ぴょんぴょん跳びが出来る子が何人か出てきた。その様子を見ていた周りの子どもたちも、競争心が湧いたのか「縄跳びしたい」と登園時や自由遊びの時に、言ってくるようになった。またお互いのカードを見せあって「負けないぞ」という会話も聞こえてきた。

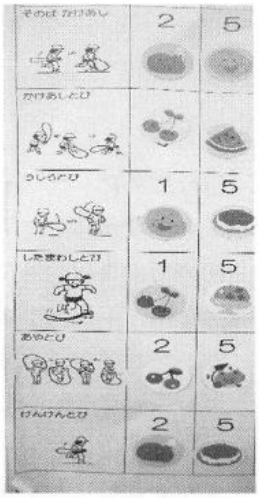
１１月に入ると、半分以上の子どもが、ぴょんぴょん跳びを跳べるようになっていた。そこで、そんな今までの成果をぜひ保護者にも見てほしいと思った。発表会に向けて取り組んでいた、劇あそびの『スイミー』の中に縄跳びを披露する場面を入れてみようかと子どもたちに提案してみた。すると子どもたちの反応も良く、もう少しで跳べそうな子も自分の保護者にかっこいい所を見てもらおうと、頑張って練習していた。しかし、中々上手くいかない子もいて、段々とやる気をなくしてしまう様子が見られるようになった。保育士が「縄跳びやってみない？」とすすめても、嫌そうにする子もいた。そういった子に対して、毎日少しずつの成長を褒めていくようにした。「昨日よりも１回増えたよ」「やればできるじゃん！」と、少し大袈裟に褒めることで、その子もやる気になり、前向きに取り組もうとしていた。

発表会当日は全員が縄跳びをする様子を保護者に見てもらうことが

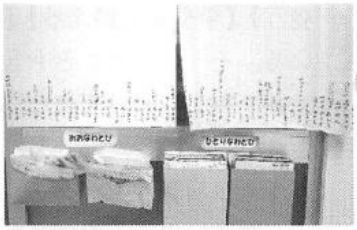
できた。大きな舞台で発表出来たことが、子どもたちの自信にも繋がっていた。

発表会が終わっても子どもたちの縄跳びに対する熱は冷めず、好きな遊びの時間にホールに出て楽しむ姿が見られた。そこで、色々な技に挑戦できるように縄跳びカードの第二弾を作った。

[その場掛け足] [かけ足跳び][うしろ跳び][下回し跳び][あやとび][ケンケン跳び]を新たに取り入れた。ぴょんぴょん跳びが３０回連続跳べるようになった子どもに第二弾のカードを用意した。新しいカードを見て、次の目標が出来てさらに意欲を出し、挑戦していた。また、縄跳びを嫌そうにしていた子も、周りの友だちがどんどん新しいカードになっていく様子を見て、自分から縄跳びを持って跳ぼうとする姿が見られるようになった。

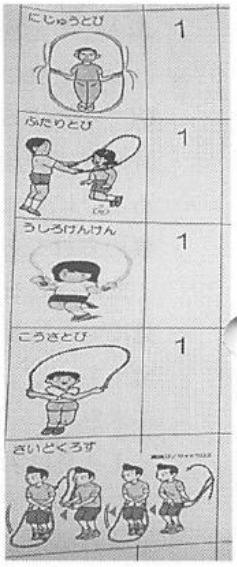


カード以外にも保育室の入口に「連続で何回跳べたのか」を書きこめる表を作った。それを見て誰よりもたくさん跳ぼうと「先生数えて」「さくら組で一番になってやる」と意欲を見せる子もいた。そうやって、友だち同士でお互いを高め合っていた。



□おわりに

縄跳びの活動を始めた頃は、１２月を節目に取り組みに区切りをつけようと予定していたが、子どもたちの意欲が１月に入ってからも続いていた。そのため第三段の縄跳びカードも作成した。子どもたちも次の新しいカードになれるように、頑張っていた。



今年度は、クラスの子どもたちの人数も多く、競争相手がたくさんいたことで、長い間意欲を持って縄跳びに取り組むことができたと感じた。また、縄跳びの技で４歳児には少し難しいかなと思ったものでも、競争心から達成できる子どももいた。そのことで、年齢にとらわれずに挑戦してみることも大切なのかもしれないと感じさせられた。

しかし逆に、周りがどんどん出来て、自分だけ上手く跳べずに、苦手意識を持ってしまう子もいた。子どもは上手にできないことは、基本的に「嫌だ」と感じてしまう。今回の取り組みでは「できること」から始めて、それが少しずつ増えて、子どものやる気を上げていけるように設定をしていた。しかしその子に対して、保育士がしっかりと一対一で付いて見ることが出来なかった。まずはその子が何につまずいているのかを、把握することが必要だったと反省した。そういった子どもの苦手意識を減らす取り組みを今後の課題にしたい。

3歳児

ちゅうりっぷ組　たんぽぽ組　あさがお組

歯磨き指導を受けました
上手に磨けているかな?

ホールでなかよく「じゃんけん列車」
長く繋がったね！

もっともっと大きな穴を掘って
みんなで入ろうよ

はじめまして、こども園

髙橋　紀子

＜はじめに＞

今年度、認定こども園が開設した。初めての環境になることで、子どもたちも私自身もドキドキワクワクそして不安もいっぱいの中で４月がスタートした。

まずは３歳児の自分のクラスの子どもたちと保護者をしっかりと覚えなくてはならない。そして初めて出会う子どもたちが不安にならないよう努め、保護者とも丁寧に関わるようにした。クラス運営も軌道に乗ってきた頃から、子どもたちや保護者の姿がよく見えるようになってきて、そこからどんな関わり方をしていくといいのか試行錯誤しながら関わるようにした。

＜日々の関わりから＞

～初めてのことが苦手なＡ～

生活全般からみて少々幼さが見られるＡ。こだわりも強く、普段と少し違うことがあると抵抗を示している。おもちゃの取り合いになると、奇声をあげて大泣きしている。

⬇

日々の保育の活動が同じことの繰り返しにならないように、時には給食を食べる席を変えてみたりするなどして変化をつけて過ごすようにしてみた。始めのうちはいつもと同じ席にこだわる姿が見られたが、繰り返し行っていくうちに「いつもと違う場所に座る」という事を受け入れられるようになってきた。こういう経験を積み重ねていくうちにいつもと違う事への抵抗感が弱くなってきている。

おもちゃの取り合いになる場面では、まだ、とにかく泣いて気持ちを表すことしかできないＡに根気よく向き合い、まずはＡの気持ちを受け止め、そしてＡが言葉に出して気持ちを伝えられるようにしていった。相手の子との言葉のやり取りが少しずつできるようになってきた。

～口数の少ないＢ～

新年度がスタートし、少しずつ子どもたちも新しい環境に慣れて遊ぶ中で日頃から口数が少ないＢである。自分のしたい事や困っている事等の思いを言葉にして言う事がなかなかできず、泣くことで保育士に気持ちを知らせている。泣き始めると気持ちが切り替わるまで時間がかかっている。

⬇

Ｂには、新しい環境に早く慣れて自分を出していけるよう、うまく遊びの中に入れなかったり、何をしたらいいのかわからない様子の時には、意識して話し掛けたり一緒に遊んだりしてたくさん関わるようにした。そうすることで、Ｂの表情が明るくなり、保育士から言われた事に対して頷く程度の反応だったのが、言葉でのやり取りができるようになり反応が良くなってきた。自分から聞いてほしい事を話してきたりするようにもなってきた。

まだ困ったことがあると泣く場面はあるが、その時の気持ちを言葉に出して言う事ができるようになってきたので、気持ちの切り替えは早くなっている。

～不安いっぱいのお母さん～

色々な子どもたちがいるように、色々なお母さんたちがいる。心配症な人。忘れ物が多い人。子どもの言いなりになってしまう人等々。日頃の連絡帳でお母さんたちの思いを知り「こんな事を感じているのだな。」と考えさせられる時もある。

⬇

お母さんが不安な心情を表してきた時は、連絡帳だけで終わりにせず、よく話を聞くようにした。「話を聞いてもらえて良かったです。すっきりしました。」等の反応があると、こちらも話ができて良かったなと感じる。少しでもお母さん達が安心して子どもと向き合うことができるようなお手伝いができればうれしい。

お母さんたちとの連絡帳のやり取りの中にはクレーム事項もある。そんな時はつい身構えてしまうが、文面だけではお互いの気持ちがわからないので顔を見て話をするようにした。文面での表現がきつく感じても、実際話してみると想像していたよりもスムーズに会話ができ、お母さんの思いやこちらの思いを再確認し合いながら話をすることができた。

保護者との信頼関係を育てていくには、話をする事が一番大事なのだと改めて感じる事ができた。

＜今年度の反省とまとめ＞

今年度は私自身も新しい環境に慣れるのに必死で、余裕もなくバタバタと１年が過ぎてきたように思う。そんな中で、クラスの子どもたちは、この１年間で身の回りの事が自分でできる様になったり、集団ゲームができるようになったり、話を静かに聞けるようになったり等、たくさん成長した。

クラスとしては子どもたちや保護者の思いに寄り添って運営することができたと思うが、クラスの事に精いっぱいで、他学年との関わりが少なかったと思う。もう少し全体を見つめながら日々を過ごしていくようにしたら保育の幅も広がったのではないかと反省している。

来年度はこども園２年目。この１年間で良かった事はまた実行していくようにし、改善点や反省点を来年度の保育に生かしていくようにしたい。

安心して過ごせるこども園へ

松本 佳奈絵

＜はじめに＞

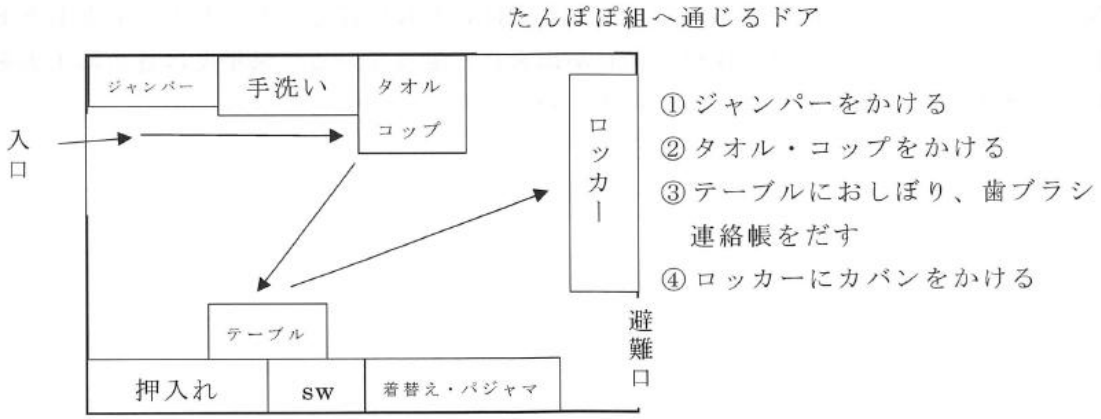
今年度から湯沢、中央、神立、土樽の4か所の保育園が統合し、湯沢認定こども園が開園した。今まで別々の保育園に通っていた子どもたちが1つの園に集まり、全園児約200人のこども園になった。年少児は3クラスあり41人が在籍している。私が担任になったちゅーりっぷ組はクラスの約半数近くが新入園であった。入園以前に子育て広場等に参加していた子もいたが、集団生活には馴染みがなく、友だちとの関わり方が分からなかったり不安を持っている子が多いと考えた。また、今まで保育園に未満児として在園していた子もこども園になり今までと違う環境になるが、どの子どもたちにとっても『安心し落ち着いて生活が出来るクラス』にしたいと目標を立て、保育環境を工夫してきた。

＜全員が安心し落ち着いて過せる環境づくり＞

子どもたちが安心し、落ち着いて生活が出来るクラスにするために保育室の動線(物的環境)と声の大きさ(人的環境)を意識した。

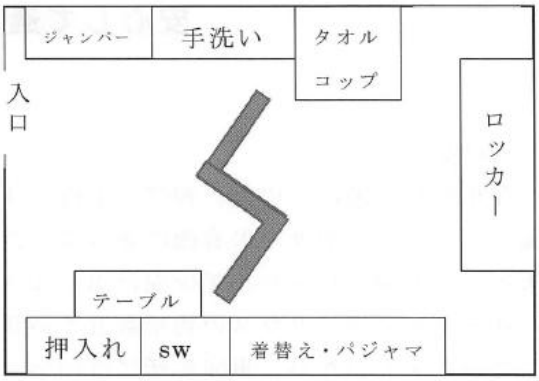
○保育室の動線について

子どもたちが登園してから降園するまで1番多くの時間を過ごすのが保育室なので、朝の支度から帰りの支度までスムーズに行えるように保育室の棚やテーブル、コップ掛け等を下の図のように配置した。本当は保育室をぐるっと一周回れば支度が終わる環境が好ましく、タオル・コップ掛けの隣におしぼりや連絡帳を置くテーブルを配置したかったのだが、そこには隣のクラスに通じるドアがあったので出来なかった。ただ、なるべく子どもたちが動きやすいような環境を作った。



コップ掛けからテーブルまでが離れているので戸惑う子も多いかと思ったが、実際に保育が始まり、声をかけながら行うことで思ったよりもすんなり支度が出来、4月の後半頃には声を掛けなくても子どもたちが自分でスムーズに行えるようになった。

また、給食後はパジャマに着替えている子と遊んでいる子、おやつ後は支度をしている子と遊んでいる子が混ざってしまわないように、牛乳パックで作った仕切りを置き、着替えや支度が終わった子は入口側で遊べるようにした。そうすることでお互いに邪魔をせずに自分がやるべき事に集中できるようになった。



○声の大きさについて

まず、子どもたちに声をかける時、とにかく意識したのが大きな声を出さないことであった。例えば、名前を呼ぶとき遠くから呼ぶのではなく、その子の近くに行って不快にならない“声の大きさ”“トーン”“呼び方”を心掛けた。そして子ども同士のトラブルの際は保育室ではなく、落ち着いて話が出来る静かな場所(廊下や他の部屋等)に移動して話をした。次に、子どもたちが自分の声の大きさを意識出来るよう、大きな声の子にはもっと小さな声でも聞こえることを知らせ、ちょうど良い声の大きさで話が出来た時には褒めるようにした。また、「話したいことがあるときは一斉に話すと聞こえないから、順番に話を聞くね。」と子どもたちに伝え、一人ひとりとしっかりと話をした。初めは加減が出来ずに大声で話したり怒鳴ったりしている子も多かったが、少しずつ意識できるようになり、保育室全体が静かで落ち着いた場所になった。

＜最後に＞

1年の始まりに『安心し落ち着いて過せるクラス』にしたいと目標を立てて、上記のことを実践していく中で、保育士が環境を整えたことで子どもたちは落ち着き、安定して成長できた。また、保育士の声掛けや接し方ひとつで子どもたちの意識も変わっていくことを改めて実感した。今年度の環境設定は思うようにいかない部分もあったが、もともとあるものの中で工夫して一番良い環境で保育が出来たと思っている。来年度はさらに工夫を重ねて子どもたちの成長を後押ししていきたい。

視覚化して伝える

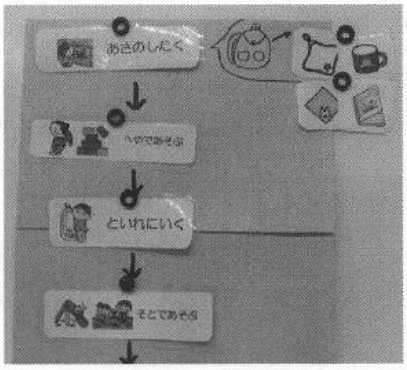
二階堂　彩香

＜はじめに＞

今年度、男児７名女児６名の年少クラスの担任になった。元気があって賑やかなクラスだが、保育士が話している途中で立ち歩いたり、話し始めたりしてクラス全体が落ち着かなかった。保育士の声掛けが入らず次の行動に移るまで時間がかかる事が多かった。6月になってもなかなか落ち着かないのでどうしたら、スムーズに行動できるようになるか考えた。

＜絵カードを使っての取り組み＞

☆1日の流れを視覚化して伝える。



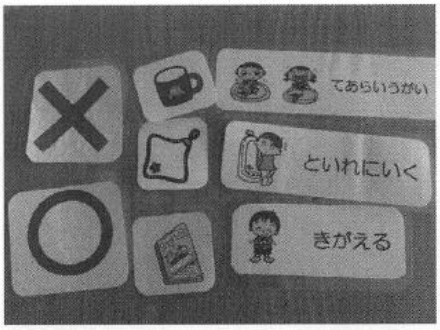
次の行動に移るのが苦手な子が多かった為、言葉だけでなく、絵カードを作りわかりやすく視覚化する事にした。朝の支度からお昼寝までの動きを壁に貼り、子ども達が見る事ができるようにした。そして、朝の会の中で1日の流れを説明するようにした。

使い始めは物珍しさもあってか、絵カードを見ながら動く子が多かった。しかし、それを見ながら動けない子もいたので、目の前で見せながら声をかけると気づいて動けるようになってきた。特に丸とバツのマークは使いやすく、子ども達にも「してもいい事」、「してはいけない事」がわかりやすく、できた時に丸のカードを胸に貼ってあげるととても喜んでいた。1人が貼ってもらうとそれを見て、他の子達も欲しがったので、丸のカードをたくさん作るとそれを励みに支度等を頑張る子が増えた。

しかし、目の前で見せようとしても逃げたり、視線を逸らしたりして見ようとしない子もいたが、その子には保育士が一緒に行動しながら流れを掴めるようにしてきた。

↓（その後の子ども達の様子）

夏の終わりまで絵カードを壁に貼ってきたが、絵カードを見なくても声掛けだけで行動に移せるようになってきた。その為、壁に絵カードを貼る事はしなくなった。中には、声掛けだけでは行動できない子もいるので、必要に応じて現在も絵カードを使用している。



～反省点～

クラス全体に見せるには絵が少し小さく、見えずらかったようだ。もう少し絵を大きくして、子ども達が見やすい大きさの絵カードを作ればよかった。1日の主な流れを貼るのは夏で終わりにしてしまったが、1年を通して行なってもよかったと思う。

☆手洗いうがいの仕方を視覚化して伝える。

春から手洗いうがいの仕方を伝えてきた。手洗いでは、石鹸をつけてもこすらずにそのまま流してしまう子や、手の甲が洗えていない子が多かった。手洗いの仕方の見本を保育士が見せてもなかなか身につかなかった。うがいはブクブクうがいとガラガラうがいの違いがわからないようで、歯磨きの後にガラガラうがいをしている子が多かった。

そのため、手洗いうがいの手順の描いてある図を手洗い場に貼る事にした。図を貼るとすぐに「これなに？」と気づく子がいた。「手洗いの仕方だよ」と伝えると、その図を見ながら真剣に手を洗っている姿が見られた。普段、嫌がって手を洗おうとしない子も興味を持ち、図を見ながら洗い「みてー！ピカピカ！」と嬉しそうに保育士に見せていた。最初は鏡の上の壁に貼っていたが、子どもの目線より高いので子ども達が見えやすいような位置に貼った方がいいとアドバイスをもらった。鏡の面に貼り直すと子ども達は見えやすくなったのか、1つ1つの絵を指さし、確認しながら洗う姿が見られた。

↓（その後の子ども達の様子）

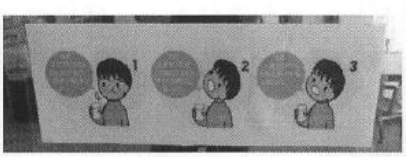
図が貼ってあるのに慣れてきたようで、雑に手洗いをする子も出てきているが、図を指さしながら声をかけると気づいてそれを見ながら丁寧に洗っている。

一方、うがいの方は図を見ながら行なっている姿が見られるようになり、ブクブクうがいとガラガラうがいの違いがわかってきて間違える子は少なくなってきた。

～反省点～

手洗いうがいは1年を通して行なう事なので、早い時期から手洗いの仕方のわかる図を貼っておけばよかった。声掛けや保育士の見本だけでなく、図を貼る事で子ども達自身が気づいて手洗いうがいをできるのだなと思った。

手洗いうがいの仕方の図



子ども達が見やすい位置に貼った。

＜まとめ＞

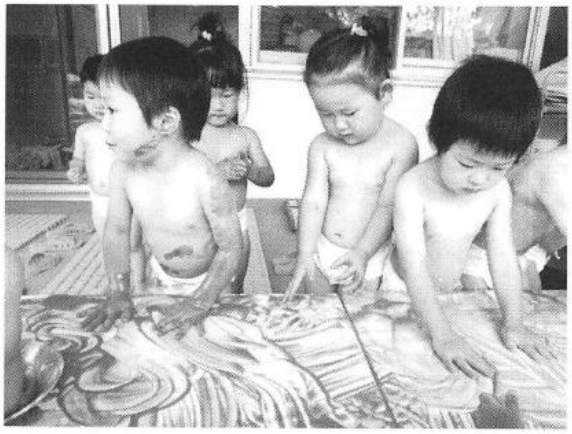
視覚化する事で、言葉では説明が難しい事でも子ども達にはわかりやすく、子ども自身が自分で気づいて動く事がわかった。今まで、声掛けだけで指示等をしてきたが、これからは、必要に応じて視覚化して、子ども達にわかりやすく伝えていきたいと思う。絵カードは今年度の反省を活かして、子ども達が見やすい大きさの絵カードを作ったり、絵カードの種類を増やしたりしていきたい。

２歳児

こすもす組　すずらん組

第一グラウンドの斜面は、楽しい遊び場
「よいしょ　よいしょ」

お兄さん・お姉さんの真似をして
広いグラウンドを走っています
ちびっこマラソン選手みたいでしょ



絵の具を指につけて・・・
ボディーペインティングって面白いなぁ

行ってみよう！やってみよう！

高井　美雪

≪はじめに≫

今年度から４園が統合し認定こども園となり、私は２歳児担任となった。保育士も子どもたちも新しい環境でのスタートとなる。そこで担任５人で、『２歳児クラスは、保育士と子どもたちみんなで色々な経験をし、楽しく過ごそう！』と、心掛けながら保育を進めていくことにした。私は【子どもたちと色々な所へ行ってみよう。色々な経験をさせてあげるために、色々やってみよう。】を自分のテーマとして一年間の保育を進めていくことにした。

≪出来るようになったよ！≫

生活している中で一人ひとり子どもたちを見ていると、何もない所で躓く子、身体を動かすことを極端に嫌がる子、手をつないで歩くことが出来ない子、足の力が弱いのかな？散歩をしたことないのかな？と気になる姿の子が多いことに気づいた。そこでたくさん散歩に出掛け、いろいろなものを見たり触れたりして、たくさんの発見と体験させてあげたいと思った。

最初に、散歩の中で短い距離を友だちや保育士と、手を繋ぎ歩くことから始めることにした。進級児は、昨年度の経験があるので、友だちと手を繋いで歩き、友だち同士で繋ぐ経験を重ねていく。新入園児は、手を繋ぎ歩くことに慣れるよう、保育士と手を繋ぎ安全面に配慮した。

散歩先として様々な場所を選んだが、よく出掛けたのはこども園すぐ裏の中学校グラウンドだった。グラウンドに降りる階段や、桜の木の下には少し急な坂道があり、足の筋力アップには良い場所だと思ったからだ。また、桜やタンポポなど、季節を感じられる植物も身近にあり、広いグラウンドで走り回ることも出来る。草が生い茂る時期には虫もたくさんいたので、観察し虫に触れてみる経験も出来る。子どもたちも「グラウンドへ散歩に行くよ！」と言うと、「やったー！」と喜ぶ声が聞かれた。

保育士のやっていること、何でもやってみようと真似をする子どもたちだったので、私が坂道を駆け登ると真似をして挑戦しようとする。かなり急なのでなかなか登れない。身体の動きが良い子が登るのを見て、もう一回挑戦してみる。近くの植物につかまって登ったり、保育士に助けを求めて登ったりする子もいた。回数を重ねていくうちに少しずつ登れる子が増えてきた。

運動を極端に嫌がっていたＡは、友だちを見ても「Ａはやらないの。」と言い続けていた。グラウンドに行っても、花弁や桜の実を拾ったり、タンポポを摘んだりするだけだった。

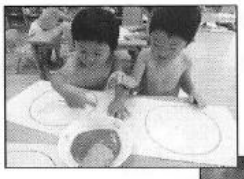
私はＡにも坂登りを経験してほしかったので、やってみようという気持ちを持てるよう心掛け、Ａの手を引いて登ったり、Ａの身体を後ろから押したりして手助けした。何回も繰り返していくうちに、自分から挑戦する姿が見られるようになった。何度も出掛け、何度も挑戦するうちに、Ａも一人で坂道を登れるようになった。自分で登れるようになった事で、運動面にも少しずつ自信をつけてきたＡは、室内でも高さのある橋渡りにも挑戦するようになった。

≪新しいことやってみよう！≫

今までやってみたいと思った事もあったが、なかなか手を出せずにいたボディペインティングを、夏の水遊びの頃にやってみた。こども園となり、部屋からすぐに水遊び場へ出られるため、準備・

後片付けの面や、子どもたちの動線を考えても実施出来そうだった。また活動内容を話し合った時に、担任間で同じ思いを持っていると確認出来たので、私は今年のテーマである『やってみよう！』を思い出し、挑戦することにした。インターネットで色々調べ、水性絵の具・水・小麦粉で糊絵の具を自宅で製作して、鍋に入れて園に持っていく。子どもたちはすぐに、私の持っている鍋の中身に興味を持ち、「何が入ってるの？」と気になる様子だった。ふたを開け、中身を見た子どもたちは、匂いを嗅いでみたり、指で突ついてみたりする。新しいことには慎重な子もいて、鍋にも近寄らず、手を出せない子もいた。

そこで、最初からボディペインティングをするのではなく、指先や掌で触って製作（ピザ）で使用して少しずつ慣れるようにしてみた。



≪ピザの手順≫

① 赤色で糊絵の具を作り、ピザソースに見立てて、画用紙に描いた円の中に指先や掌で塗り広げる。

② 事前にはさみで切っておいた画用紙の材料（コーン・ピーマン・チーズ・サラミ）を飾り付けて出来上がり。

製作が終わった子どもたちの、「楽しかった！」「まだやりたい！」という声を聞き、「今度は、お外に出てみよう！」と子どもたちを誘った。保育士が準備しておいたテーブルの上の大きな紙に、赤・青・緑３色の糊絵の具で線や丸を書いて見せると、ピザ作りを楽しんでいた子どもたちは早速真似をしてやってみる。自分が書いた所に、友だちが違う色で描くことによって、色が混ざり合うのを楽しむ姿が見られた。少し苦手な子は、指先にちょっとつけて紙を撫でている。

今度は、楽しんでいる子どもたちの足やお腹などに糊絵の具を付けてみた。くすぐったそうにしていた子どもたちは、身体中に糊絵の具を付けたり、友だちと付け合いっこをしたり、次第に大胆に遊ぶようになった。全身に糊絵の具を付け、テーブルの紙の上を滑って遊ぶ子も出てくる位に楽しむことが出来た。

≪今年度経験して≫

今年度はたくさん散歩に出掛け、旧神立保育園前の公園や中央公園・足湯前の公園まで行く遠出の散歩も楽しむことが出来た。またいつも２歳児全員で出掛けていた散歩に、クラス別で出掛けてみた事もあった。そのような場合では、いつもの大人の目が多く、声掛けも多くなる環境の中では歩けていた子が、上手に歩けなくなるという事にも気づくことが出来た。≪ここに行ってみよう。今日はこんな事をやってみよう。≫そのテーマに沿って色々な活動をし、子どもたちのためにどのように保育していくことが良いのか、保育士同士で色々な意見を出し合い、日々の保育を進めることが出来た。

また、自分自身が初めて取り組むことも多い１年で、子どもたちには保育士が楽しんでいる姿を見せ、一緒に楽しめるように工夫してきた。新しいことに不安を見せる子も多かったが、色々な事に興味・関心を持ち、楽しめる子どもたちに育ってきてくれているのではないかと思う。今年度の経験を生かして、これから先も、子どもたちのための保育が出来る様、自分自身の引き出しの中に沢山の『行ってみよう！やってみよう！』を入れて、日々の保育を進めていきたいと思う。

「やだやだ」に付き合って…

桑原　路子

≪はじめに≫

こども園一年目は、２歳児２クラスある中のこすもす組の担任となった。春の頃は、新しい園舎になったこともあり継続児も不安定で落ち着かずにいた。少しずつ園にも担任にも慣れてくる中で、新入児と継続児の経験の差も感じられるようになってきた。こども園での生活に見通しが持てず、かんしゃくを起こしたり流れにのることが出来ない子どもたちにどんな保育をしていったら良いのか…日々悩むことが多かった。

≪Ａとの関わりを通して≫

・衝動的なところがあり、思いが通らず大泣きしたり友だちを押したりすることもある。
・見通しが持てずに、場面の切り替え時には流れにのれない。泣いて抵抗したり、押し入れや棚の隙間に隠れることが多い。
・指先の運動（微細運動）が苦手で指先をうまく使えない。

≪取り組み≫

本児の気持ちが落ち着く環境を探る

春の頃は、友だちに突然近づいて押し倒したり、場面の切り替え時には毎回大泣きをしていた。何をするにも一言目には「やだ」と言い、こちらが何を言っても耳に入らなかった。着替えることも嫌がり、裸のまましばらくいることもあった。落ち着かせようと声をかけても逆効果で、どんどん泣くばかりだった。おんぶが大好きで、一か月程おんぶでしか昼寝をすることが出来なかった。泣き始めると「おんぶ！おんぶ！」と言い、おんぶをすることで落ち着くようになった。だが、夏になっても泣いてばかりで常におんぶをしていることに疑問を持った。

保健師や小島先生から積極的にアドバイスを受ける

いつまでもおんぶをしていることが本児にとって良い対応なのか、もっとより良い対応を求めて保健師に相談することにした。保健師にクラスでの様子を見に来てもらった後、湯沢学園スーパーアドバイザーの小島先生へ相談する機会を作ってもらった。そして小島先生から、具体的により良い関わり方をアドバイスしてもらえた。

・おんぶについては、それですぐに落ち着くならそれで良い。言葉で言っても逆効果。さらに混乱を招くだけ。落ち着いて安心できる環境を作ってあげる。
・指先の力が弱いので、注意の持続が続かないのもそのせいではないか。手遊びが良い。
・場面の切り替えができないのは、自分の想像の世界と実際の世界がうまく結びつかないため。根気よくつながるようにしていく。

微細運動の発達に向けて

・手遊び

活動前、みんなが集まるまでの間、給食前などに指先をよく使う手遊びをたくさん取り入れ

た。ゆっくりはっきりとしながら、どの子がどのくらい出来ているのかよく確認するようにした。うまく形に出来ていないときには手を添えながら一緒にやってみた。Aは手遊びはすごく好んでいたのでたくさん楽しむことが出来た。「できない！」「んー！」と言いながらも、“チョキ”や“きつね”の手も出来るようになった。

・手や指を使った遊び

年間計画の中に、紙をちぎる遊びやはさみ、粘土等指先を使う活動を一年間通して取り入れるようにした。粘土はAの好きな遊びの一つで、初めは粘土の塊を手のひら全体で揉んでいるだけだったが、保育士が長く伸ばしたものを切ったり、型抜きをすると真似をしたりしていた。自分でも少しずつコロコロ丸めたりするようにもなってきた。紙をちぎる手の動きも重ね、指先の力が付き、Aだけでなく全員が冬のはじめにはおやつのお菓子の袋を開けられるようになった。秋頃からは、はさみも使ってみるようになった。はさみは、まだまだ１対１で丁寧に伝えている。チョキンチョキンと切り落とす作業が楽しくて、切ったものをビニール袋に入れて「おみやげにする」と持ち帰ったりしている。

交換条件を使う

なかなかおんぶを卒業出来ず、秋頃から、“おんぶしてあげるから、〇〇してからね”と課題を一つ投げかけることにした。初めは今まで通り泣くばかりだったが、こちらも時に見守るだけで応えずにいたり、時にいけないことはいけないと伝えるようにした。散歩帰りに「おんぶ」と言った時には“あそこまで行ったらね”、給食前に泣いたら“おしっこ行って手洗いしたらね”など声をかけていた。もちろん毎回出来るわけではないが、交換条件を重ねる中で少しずつ保育士の話に耳を傾け、課題を受け入れられるようになったのは本児にとって大きな成長ではないかと感じた。

≪おわりに≫

Aは、今も衝動的な行動があり泣くことも多い。保育士の気を引きたいのか、だめと言われたことをわざとしたりと保育士へアピールしてくる。その時の状況を見ながら、静かな場所へ移動して様子を見たりしているが、おんぶすることは減り、気持ちを受け止めてもらうことで流れにのれる場面も増えてきた。

今年度１３名の子どもたちと過ごし、何をするにも抵抗を示す子どもたちが多く、どこまでがわがままでどこまで受け入れていいものなのかとても悩んだ。その中で、保育所保育指針の２歳児の発達のめやす“自我の育ち”を改めて読み直し、『「やだ」という自己主張を積極的に受け止め、自分の事を信じ見守ってくれる大人の存在によって、時間をかけて自分の感情を鎮め、気持ちを立て直していく』という事を再確認した。焦らずにもっと子どもたちの気持ちを受け止め、子どもを信じて待ってみようと思った。その気付きが遅かったことを反省している。

今後どのクラス担任になっても、その子と同じ目線になり、気持ちを受け止め、信頼関係を築いていけるような保育をこれからも心掛けていきたい。そしてわかっているつもりではなく、再度発達のめやすをよく勉強し直すことの大切さに気付くことが出来た。

1歳児　すみれ組

1階ホールで、大好きな「地球をドンドン♪」を踊っています
ブーン　ブーン　飛行機になって走っています

親子遠足でカルチャーセンターに行きました
「ミニ運動会」を楽しみました。パパやママと一緒で嬉しいな

新しいスタートで再確認から学ぶ

阪上　恵美子

＜　はじめに　＞

湯沢認定こども園に向けて、保育士として２５年も続けている私でも、昨年度末から期待よりも不安が大きかった。それは今までの保育園と違い、認定こども園ということ。そして指導保育士という立場で職務をどう進めるかや、自分が担任するクラスの１歳児（１歳０ヶ月から１歳１１ヶ月）すみれ組が２５人もいるという大人数など、誰も経験した事の無い中での、湯沢認定こども園がスタートしたからだ。

入園式では受付補助をしたが、１８０名のうち５０名ほどしか分からず、保護者や子ども達とも初対面だったため、名前を呼んで対応する事も出来ず、これから新たな気持ちで、子ども達を受け入れる保育士として、もどかしく、申し訳ない気持ちだった。

保護者の多くは初めて園内に入る人が多いようで、保護者の多くは壁や天井ばかり見ていた。子どもの不安な視線を感じず子どものことは見ていない保護者も多かった。子どもを肌身離さず、ずっと抱いている保護者の中には、心配で離さない保護者と騒いでほしくなく、動きたがる子どもを抑えている両者がみられた。保護者同士話しに夢中になっている人もいれば、今までの保育園の担任と入園を喜び、話をする保護者など様々だった。子ども達は、保護者にしがみついて不安がっている子、年長児は何度か園を訪問しているので、園内を自慢そうに案内する子や、まるで今までもここに居た様な感じで走り回っている子など、いろんな様子を客観的に見ることができた。

◎ 私に出来る事は何だろうか

私が、入園式で最初に感じた印象は、地域に保育園があったときと同様、担任する子ども達と保護者との信頼関係を築くことは、言うまでもない。しかし指導保育士という立場からこども園全体を通してと考えなくてもならない。最優先は何かと思えば、やはり自分が担任する子ども達に丁寧に関わり、自分を受け入れてもらえることを一番に考えた。まだ発語もままならない年齢なので、スキンシップを心掛け子どもを通し保護者にも受け入れてもらえるようにする。また、子ども達と関わる中で、一人ひとりの生活パターンや好きな遊びを知り、そのことを保護者との話のきっかけにし、連絡帳などでも伝え、親子と関わりが持ちやすくするように心がけた。

＜　保育参加　＞

今までの保育園でも例年も行っていたが、今年度も保育参加を行った。今年度は特に園として保護者にも保育士体験をと言うことで、全クラスが行った取り組みである。園に興味がある保護者はクラス便りで案内を出すと、すぐに都合の良い日を伝えてくるが、あまり興味が無い保護者はこちらから再度誘わないと、予約を入れてくれないことが多い。今年度も半数は、直ぐに都合の良い日を連絡帳や口頭で伝えてきてくれた。秋に実施したので、保育士として子ども達との関わりの中で子ども達との信頼関係は持てるようになっており、子ども達の園生活での様子は、保護者にも伝えられるようになっていた。

保育参加は半日保護者がこども達と一緒に活動し、子ども達がどのように園生活を過ごしているのか、保育士がねらいや、関わりの配慮を含め、しっかりプロとして保育していることを知ってもらうチャンスでもある。私にとって保育参加は、担任をしている子どもが家庭ではどのような姿を

見せているのか、保護者がどのような人なのか、自分が想像していた通りなのかなど、知ることができたりし、自分の保育を見直すきっかけにもなり、楽しい時間でもある。

今回もほぼ毎日一組の親子が登園から、給食までの約３時間を一緒に過ごす。そして給食後の子ども達が昼寝中に担任と保護者が面談し、当日感じたことや、子育ての悩みごとなど保護者の話を聴く時間を設けた。園での子ども達の様子を保護者にも伝え、半日の保育を振り返りアドバイスなどもでき、ゆっくりと子どもの成長を共有した。

◎ 保育参加から見えたもの　・親子の様子

保護者の前では園で見せる姿と家庭で見せる姿に違いがある子もいた。保護者の中には、まだ1歳なのに、言葉で子どもを動かそうとする人もいれば、子どもが意欲的にやろうとしているのに、見守ることもせず、言葉もかけずに、保護者がやってあげて、他の子どもよりも早くできたことに自己満足したりしている姿も見られた。安心できた面は、自分の子ども同様に、子ども達を可愛がってくれたり、ダメなことは「ダメ」と、何でダメなのかを丁寧に伝えていたり、じっくり時間をかけて関わっている様子も見えた。

◎ 保育参加後の面談から感じたこと

連絡帳に記入出来ないような、家庭の事情を抱えていて、かなり深刻な状況を話してくださり、クラスの保護者同士の交流がないことや、人とも（他の家族など）関わりが無く、孤立しているように感じていることやなど、お子さんがこの年齢だからこその悩みだと感じることや、携帯電話の line やメールは友達同士やっているみたいだが、全員がグループに入っていないことからの現代の不安などがあることを知った。情報がたくさん溢れている時代なのに子どもの成長に関係する離乳食の進め方などがわからなかったなど、更に保護者と密の関係を築く必要性を感じた。

◎ その後の対応

子ども達はスキンシップを求めているが、保護者に不安があったり、悩みがあると、子ども達にはじっくり関われない。そこで保育者はいつも子ども達を明るく受け入れ、一日の楽しく遊べる環境を整え、保護者には子ども達の楽しそうだった様子や、片言の言葉で伝えようとしてくれたことなどを伝えた。より良い信頼関係の中から、保護者が安心して私達保育士に預けて出勤できることで、子ども達が安心して過ごせる環境でありたいと思った。そして担任同士連携し年齢や一人ひとりの発達状況に合わせた成長の保障をしていこうと再確認した。

＜　おわりに　＞

月日の経つのは早く、教え子と同僚として勤務することになった。自分の保育はどうなのか？保護者との関わりは、自分では良いと思っていることも、ほんとの所どうなのかなど、若い頃より一日を振り返れる余裕ができた分、思い切ったことも出来ない自分が居る。

今後も職員の連携を密にし、経験の浅い保育士とともに保育の振り返りを一緒にしながら、生活パターンも環境も違う家庭だが、一人ひとりにあった保育をすすめていきたい。

来年度も子育てが楽しくなるように、親子のつなぎ役になり、平成 30 年には保育所保育指針が改定されるが、この時代に合った保育を進め、初心を忘れず子どもと関わり、保護者も職員も子ども達の成長をともに喜び楽しい時間を過ごしていきたいと思っている。

一人ひとりの気持ちをしっかり受け止めて

原澤達也

〈はじめに〉

前年度、子育て支援センターを担当していたが、今年度は１歳児２５名の担任になった。未満児クラスは以前も受け持ったが、久しぶりの未満児クラスの担任で戸惑いや不安がたくさんあった。幸いだったのは、支援センター担当時に乳児検診やふれあい広場で顔を合わせた子が多かった事だ。

しかし、１歳児だけで２５名という大所帯を受け持った事は今までに無い。このクラスの子ども達が伸び伸び育っていくには、どのような保育をしていったら良いのか、新しい環境の中でどのようにクラス運営をしていけば良いのか、今までの自分の経験を活かしながら保育していこうと思った。

〈１歳児クラスで感じた事〉

４月、保育初日にまず驚いたことは、やはり人数の多さだった。１歳児と言っても、４月生まれと３月生まれの成長の差が大きく、４月生まれの子は、部屋の中を走り回りおしゃべりをし、３月生まれの子は、やっと立つ事が出来る子、ハイハイで部屋の中を移動する子と動きも様々である。また、離乳食など、給食やおやつの内容など様々であり、その成長の差をすごく感じた。こうした子ども達が同じ部屋の中で、また職員も慣れていない環境で、どうしたら良いのだろうと不安を感じてしまった。子どもたちは、まだ自分の思いを口に出来ず、泣いたり、怒ったりしながら自分の思いを表現している。思いが伝わらず、友達に噛みついたり、押し倒したりしてしまう日が続いた。そうした中で、保育者が子どもたちの思いを代弁したり、気持ちを汲み取ったりして行かなければならないと感じた。

〈自分に出来る事は？〉

クラス運営をするにあたって、まず自分にできる事を考えた時「安心できる保育者になろう」と思った。担任が不安になっていると、園に来ている子どもたちも不安になり、泣き続けてしまうだろう。自分の思いが誰にも伝わらなければ、安心して過ごすことが出来ず、園に来る事が嫌になってしまうだろう。そう考えた時に、園に来る子どもたちが安心して過ごせるよう、一人ひとりの気持ちをしっかり受け止めるようにした。また、前年度の経験を活かして保護者との関係もスムーズに築いていけるように、笑顔で接するように心掛けてきた。以前からやってきた事であるが、改めて自分にしっかり言い聞かせて行かないといけないと思うほど必死だった。

まずは、登園時に笑顔で受け入れ、気持ちが落ち着くまで抱っこをしたり、おんぶをして話しかけたり、気持ちを代弁しながら関わり、出来るだけ一緒に遊ぶようにしてきた。また、保護者と話す時に笑顔で接すると、保護者も笑顔で応えてくれた。初めは、なかなか泣き止まずに遊べなかった子どもが、保護者との笑顔でのやり取りを見ていて「この人は安心できる」と感じてくれて、登園時に泣く事が少なくなり自分の好きな遊びを見つけじっくりと遊べるようになってきた。

〈気持ちを受け入れていく事で〉

一人ひとりの気持ちを受け入れていくことで、子どもたちに変化がみられてきた。朝、自分がクラスに入ると抱きついてくる子どもたちに「おはよう」と声をかけながら抱きしめて挨拶をする。そうした中で子どもたちに笑顔が見られるようになり、一生懸命話しかけてきてくれたり、自分のして欲しい事を要求してきたり、好きな遊びを見つけて遊び出している。子どもの成長もあると思うが、こうしたやり取りが出来る様になった事を嬉しく感じた。保護者から笑顔で話しかけてくれるようになり、家での子どもの様子や心配な事を話してくれるようになって、少しずつ信頼関係が出来てきた。

子どもが安心できる保育者、保護者が安心できる保育者、両方が出来て初めて「安心できる保育者」になるのではないだろうか。少しずつ自分が目指してきた所へ近づけたように思えた。

〈おわりに〉

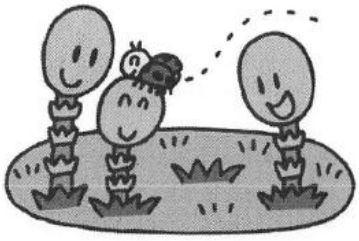
新しい環境になり、子どもたちも職員も不安だらけでスタートした１年だったと思う。そんな中で自分が出来た事は、保育士として当たり前だったのかもしれない。もうベテランと言われる時期に来ているが、レベルの低い事だったのかもしれない。しかし、今年度は子どもたちとの関わりや保護者との関わりについて初心に帰る事が出来たのではないかと思った。笑顔で接する事で、子どもや保護者に安心を与え、そこから信頼を得る事に繋がっていくと信じたい。これは、子どもや保護者だけではなく、職員間でも笑顔は必要であり、自分は出来るだけ笑顔でいられるように努力してきた。どんな職場でも笑顔が力になり、やる気にも繋がると思っている。もっと、子どもたちが笑顔で過ごし、保護者が笑顔で任せてくれる様な園になっていって欲しいと思う。そのためには、園内をもっと有効活用できる保育のやり方や職員間の連携が重要になってくると思う。子育てに関する法律や町としての施策が色々と変わっていく中で、柔軟に対応しながら自分たちの保育していかなければならない。これから出来る事を考え、伸び伸びと子どもたちが成長出来る様な園であって欲しいし、そう出来る保育士になりたいと思う。

0歳児

つくし組

散歩に来た木陰にシートを敷いて、ハイハイしたり、おもちゃで遊んだり…

まねっこ大好き！　みんなで「いとまき体操♪」楽しいな



手作り玩具で手を動かして遊ぼう

角谷　美代子

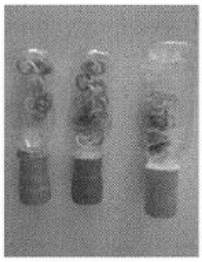
＜はじめに＞

今年度は、０歳児１５人を担任することになった。０歳児の子ども達は、寝返りが出来お座りが安定すると、床に手を着いて体を支えて前に進み這い這いが出来るようになる。そして、好きな所へ移動し、活動範囲も広くなる。次に、つかまり立ちをし歩けるようになって探索活動が盛んになってくる。

子ども達は遊んでいる時、人差し指と中指の２本や親指をしゃぶる子が多く、指に吸いだこが出来ている子もいて気になった。朝夕の延長保育と土曜・休日保育を利用している子に多く、園で過ごす時間も長い。子どもが玩具を持つ時は、指を開いてから手で握って遊んだり、指で押したり触ったりして遊んでいる。そこで、指をしゃぶることが少なくなって欲しいと願って、手に合う軽い手作りの玩具を作ることにした。

また、子ども達が楽しく遊ぶことが出来るように、小さな手に握りやすい太さと長さを工夫し、手や指を動かす取り組みを行うことにした。

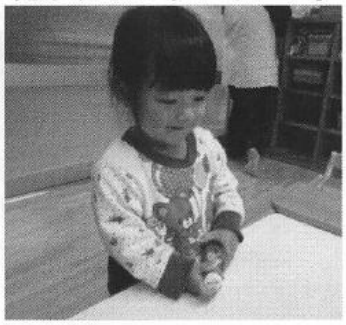
＜マラカスの取り組み＞



５月、軽くて子どもの手に握りやすいように小さめのペットボトルに綺麗な色のチェーンリングを入れ、音の出るマラカスを作った。

保育士がマラカスを振って遊んで見せた後、棚にある玩具ケースにマラカスを入れておくと、這い這いしながら側に行き、手に持って遊ぶと思ったが興味を示さなかった。そこで、子ども達の手にマラカスを渡すと両手で持って、なめたり噛んだりしていた。マラカスを振ると音が出ることを伝えたり、コマのように回し、言葉につながるように「クルクル」と言いながら見せると手で触り止めることを楽しんでいた。

少しすると、自分でマラカスを持って遊ぶ姿が見られるようになった。楽しくマラカスで遊べるようにＣＤを掛け、音楽に合わせ一緒にマラカスを持って遊んできた。すると、子ども達も両手にマラカスを持ち、振って遊ぶ姿が見られるようになった。



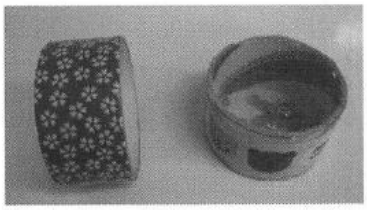
楽しくマラカスで遊んでいる姿を保護者に見て欲しいと思い、発表会に向けた活動にマラカスの踊りを取り入れた。

その後、音楽を掛けると子ども達からマラカスを両手に持って踊るようになってきた。また、マラカスを持つと音楽を掛けて欲しいと指さしをして訴える姿も見られるようになった。

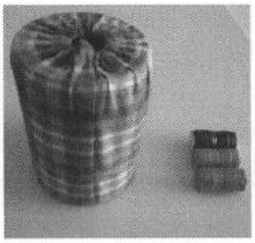
＜コロコロの取り組み＞

５月、ガムテープの芯を使い、鈴と大きいビーズを入れ動くようにナイロンで蓋をし、中が見えて転がると優しい音が出るコロコロを作った。玄関前の廊下を利用し、広い所で這い這いして追いかけて遊べる時間を設けた。保育士も「待て待て」と言いながら一緒に追いかけ楽しく遊んだ。コロコロを手にした子ども達は、コロコロを振ると大きなビーズが動くのを見て喜んでいた。

散歩時も目的地で、遊べるようにコロコロを持参し、日陰の平らな場所にナイロンシートを敷いて、その上で遊ぶ時間を設けてきた。



＜穴落としの取り組み＞

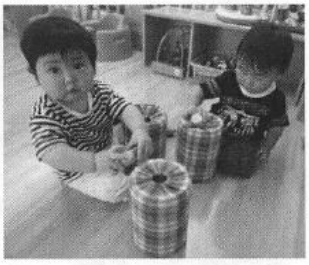


７月、ミルク缶を利用して、中に物を入れたり出したりして遊べる穴落としを作った。缶の中に入れる物として、ペットボトルの蓋を２～３個合体させたキャップ棒を作り、布でミルク缶を包んだ。言葉の獲得につながるように「コロコロ」と言いながら穴落としやキャップ棒を転がすと、這い這いや、歩いて追いかけ喜んでいた。穴落としにキャップ棒を落としたり、手を入れてキャップ棒を握ったりして遊んでいた。自分で穴の中に入っていたキャップ棒を出そうとするが、キャップ棒を横に握ったまま出そうとするのでなかなか出せずにいた。

穴落としの中から出し入れしやすいようにハンカチを入れてみた。子どもがハンカチを少し引っ張ると出しやすく、ハンカチが出ると喜んで見せる姿が見られるようになった。そんな中、手で握ったキャップ棒の向きを替えて、穴から出すことが出来る子がいた。キャップ棒を穴へ入れたり出したりすることを楽しむようになってきた。

その後、友達のやっていることに興味を持ち、側に行き穴落としの取り合いになることがあったので、同じ物を渡しトラブルにならないよう配慮してきた。１２月になると、子どもから穴落としを重ねて遊ぶ姿が見られるようになった。

０歳児でも大きい物を崩れないように上手に重ねることが出来ることを目のあたりにし驚いた。



キャップ棒やハンカチを
出したり入れたり出来た。

３個穴落
としを重
ねた瞬間

＜おわりに＞

１年間、子ども達に手作り玩具で遊ぶ楽しさを伝えると、指しゃぶりをすることが少なくなった。手作り玩具は、音が出たり回ったり、中に入っている物が動いたりして、色が変化する時に楽しさを味わうものである。握る・つまむ動作で指を使い、手の機能を働かそうとし、視覚・聴覚等の感覚の育ちにもつながったと思う。

今後も、指や手を動かすことが楽しくなるように色々な遊びを工夫して体験させていきたい。

発達に合わせた手作りおもちゃ

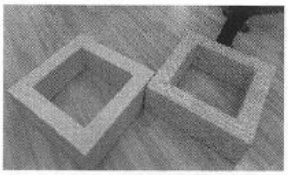
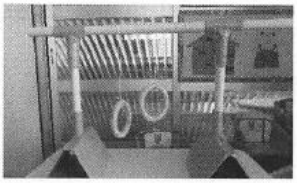
青木　歩

＜　はじめに　＞

今年度、０歳児の担任となった。６か月児からの受け入れとなり、お座りが始まった子、ハイハイやつかまり立ち、伝い歩きをしている子、月齢によって様々な発達段階で入園してくる。ハイハイしている時期には、どんなおもちゃで一緒に遊び、発達を促していこうか、つかまり立ち、伝い歩きの頃は？と成長にあったおもちゃを提供し、環境を変えてきた。既製のおもちゃには様々な物があり、良さもある。子ども達も喜んで手に持ち遊んでいるが、その遊んでいるおもちゃは今の発達に合っているのかと考えることもあった。そこで、発達に見合っていて、子ども達が喜んで遊べるおもちゃを作っていこうと考えた。

＜　これまで作ってきたおもちゃ　＞

子どもたちの様子を見ながら春から進めてきた手作りおもちゃは、子ども達が成長していく中で、こんなおもちゃがあるといいな、喜んで遊んで欲しいなという思いを持ちながら作るようにした。それぞれにねらい、目的を持ち取り組むように心掛けてきた。その中で、子ども達が特に喜んで遊んだ物を紹介する。

作ったおもちゃ	①　連結トンネル 	②　ゆらゆらリング 
ねらい	一人で出入りすることを楽しむ	手で握ったり、ひっぱったりしてを楽しむ
作った理由及び工夫	ハイハイをするようになり、空いているロッカーに入って遊ぶようになってきた。ロッカーは危ないので、他に入って楽しめる物を考えた。段ボールハウスを作ったが、あまり入ることがなかった。そこで、牛乳パックで、四角い枠を作った。入ったり、くぐったりして楽しみ、落ち着ける空間になるように工夫した。子ども達が、安全に遊べるように、すぐに動かないように丈夫に作った。	６か月で入園した子は、お座りや寝ていることが多い。寝たままや、お座りをしている時に、手で握ったり、伸ばしたりしながら遊べるおもちゃを作りたいと考えた。寝ながら腕を伸ばすとリングが握れて、リングには、鈴をつけ音が出るように工夫した。リングも子ども達がしっかり握れる大きさ、綿を入れて、握る感触が良くなるようにした。その中で、握る力を付けていきたいと考えた。

子どもの様子	一人で出入りができるので、皆がとても喜び、入りたがった。 縦に抑えて、トンネルとして遊んだり、枠の上に乗って楽しむこともあった。また、絵本やままごとを持ってきて遊ぶこともあり、子ども達には人気のおもちゃとなった。 	月齢の小さい子が２，３人いる時に出して遊べるようにしてきた。 真ん中のリングが揺れるので、揺らすと目で追ったり、手を出したりして喜んだ。握ったり、揺らしたりしながら楽しんだ。
反省 評価	枠は一人が入る広さしかなかったので、もう少し大きい物があっても良かった。 枠が小さいために、子ども達が皆で入りたがっても入ることができないことがあった。数を増やしたかったが、置く場所がなく、数が増やせなかった。また、すぐに動かないように作ったのは良かったが、倒れてしまうこともあるので、十分注意が必要だった。	高月齢児が戸外で遊んでいる時や、他の部屋で遊んでいる時に遊ぶようにしてきた。しかし、別行動の時は午前寝をしていることが多く、遊ぶ機会が少なかった。 目の前で揺らすと、リングの動きを目で追い、掴もうとしていたが引っ張ろうとすると、倒れそうになるので、紐をゴムに替えるなどの改善をしていき、活用できるようにしたい。

＜　最後に　＞

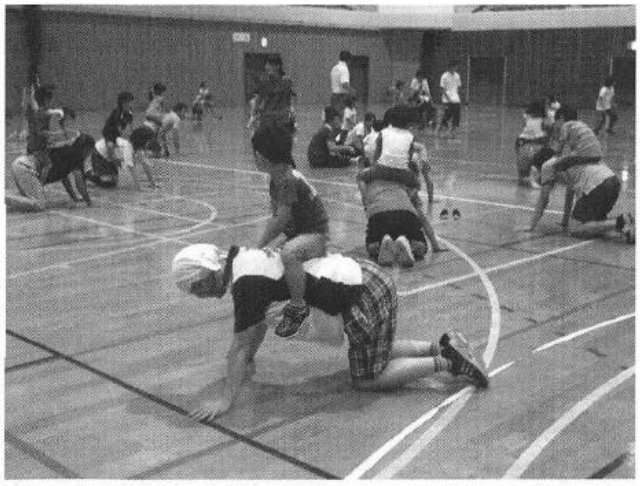
今回、手作りおもちゃを作る時に、こんなものがあったらいいなという思いで作り始め、子ども達に提供してきた。中には喜んで遊んだおもちゃ、人気のないおもちゃもあったが、子ども達はそれぞれに興味を示し、一緒に楽しむことができたのは良かったと思う。また、職員の間でも、どんなおもちゃがあると良いのか、子ども達が楽しんでくれるのかを相談し進めてきた。それぞれに色々な案があった。作ってみて良かった物や、改善が必要だった物もあり、一人では思いつかないようなおもちゃが作れたことは良かったと思うと同時に、職員間の連携や話し合いの大切さを改めて感じることができた。これからも職員間で相談し、協力し進めていきたい。

保護者から「いいですね、どうやって作ったんですか？」と聞かれることもあった。手作りおもちゃについての意図や発達に応じて作ったことや、子ども達が遊んでいる様子を伝えた。保護者も興味を持ってくれたことは嬉しかった。子ども達の喜んで遊んでいる姿や作り方などをおたよりで発信していき、保護者と一緒に子育ての楽しさを共有していくことも大切だと思うので、次の課題として取り組んでいきたいと思う。

０歳児の成長は著しい。歩けなかった子が歩けるようになったり、指さしや喃語が聞かれるようになったりする。子ども達は成長をしていく中で、様々なおもちゃに出会う。市販されているおもちゃは様々あり、それぞれに良い所もあるが、手作りおもちゃは既製品よりも温かみがある。子どもの喜ぶ姿を想像しながら作ることができることは、手作りおもちゃの良いところだと思う。その思いを大切にしながら作ってこられたのは良かったと思う。これからも子ども達の喜ぶ姿を思いながら、子ども達の発達に合わせたおもちゃを作っていきたいと思う。

子育て支援センター

こども達を通してママ同士がふれあう
ママの笑顔　こども達は大好き



カルチャーセンターで行われる
「お父さん出番ですよ」親子のふれあいって
いいですね

ママの膝に抱っこされて
何のお話聞いているのかな・・・

今求められる子育て支援とは…

久保田　めぐみ

【はじめに】

平成28年1月から、湯沢町総合子育て支援センタージャンプラネットとしてオープンし、4月からは認定こども園の開園に伴い湯沢町の子育て支援が新たにスタートした。

地域子育て支援拠点として、今までも取り組んできた活動をさらに明確化し、様々な機関と連携して事業を行っていかなければならない。基本事業として、①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進②子育て等に関する相談・援助の実施③地域子育て関連情報の提供④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施がある。平たく言えば、総合子育て支援センターは子ども同士、親同士、さらには地域の様々な人たちと子育て家庭を繋ぐ「架け橋」としての働きが期待されているのである。

本年度は分らないことだらけで、求められる仕事を十分行うことが出来なかったが、前任者の用意してくれた環境を引き継ぎつつ自分なりに悩み、工夫をし、総合子育て支援センター業務に当たってきた。それぞれの事業を通して感じたことをまとめてみたいと思う。

＜広場活動＞

・ふれあい広場

曜日　月・火・水・金

時間　9：00～12：00　　13：00～16：00

基本的にはフリー解放とし、内容により多少時間の前後はあるものの、10：30～11：00の30分、センター保育士が様々な遊びを提供し、親子で色々な遊びを楽しむ場とした。また、センター保健師や外部から講師を招いての育児講座も多数行った。

主な広場のプログラム

・身長、体重測定　・誕生日会　・季節の行事　・農園訪問（地域交流）
・ボールプール　・リズム、マット遊び　・カプラ　・小麦粉粘土　・パズル　・制作
・手遊びお話会（大型絵本やパネルシアター等）　・シール貼り
・虹の会による絵本の読み聞かせ　（季節に応じ）・プール遊び　・シャボン玉　・雪遊び

日々の広場では、「先生に○○して欲しい」と遊びの場を提供してもらうことを望む声が多く聞かれた。親自身が子どもの姿を捉え、考えて遊ぶという事が難しくなってきていることを感じそれは違うのでは…と、初めのうちは違和感を覚えた。しかし、研修や広場事業に携わってくださる方々の話を聞いたり、現代の子育て事情を知るにつれ、「今のお母さんたちは遊び方を知らない！」と嘆く前に、私たちスタッフが一緒に遊びを楽しみ、参考にしてもらえるプログラムにしていこうと意識が変わっていった。夏のプール遊びやシャボン玉、5月から10月には地域の方との触れ合いや土・作物に触れられるアクション農園訪問、冬には雪国ならではの雪遊びを取り入れた。どの活動も好評で、その日を楽しみにしてくれていた。

「家ではなかなかできなくて…」という声をよく聞くが、他にも、出来そうでできないことが沢山あることを知った。それらを踏まえ、子ども達のすこやかな成長のために必要な活動を広場プログラムにどんどん取り入れていきたいと思う。

・親カフェ

時間　10：00～11：30

内容　ファシリテーター進行のもと、お茶を飲みながら子育てや家庭のことその他、興味関心のある事などを自由に話し合しあう（支援センタースタッフが託児を行う）

毎回10組前後の参加があり人気のプログラムである。1時間半という短い時間だが、子どもと離れゆっくりとおしゃべりできる事を楽しみにしている方も多い。親カフェは、母親自身が他の母親の話を聞き自分で考え子育ての方法を学んでいく場として、とても重要な役割を果たしている。

＜一時預かり＞

本年度は非常に多くの利用があった。就労や通院、リフレッシュに加え、こども園、湯沢学園が隣接していることから行事等の短時間利用が多かった。そのほか、里帰り出産や家族の入院等長期にわたる利用も多かった。また、新たに余裕活用型として3歳以上児はこども園での対応もあり、一時預かりの方法も多様化している。

身近に預かってくれる人がいないという家族のために、いつでも預けられる…という安心感はとても重要な事であると思う。本年度は「利用しやすい一時預かりを」という事で、学校行事などの時は、短時間や利用人数の枠にとらわれず対応し、利用者側に立ったサービスが提供できたと思う。又、一時預かりがどうしても利用できない時には、ファミリーサポートセンターを勧めたりしながら、繋がりのあるサービスの提案も行えた。

【それぞれの課題】

＜ふれあい広場＞　利用年齢にばらつきや利用者の低年齢化があり、年齢別のプログラムや利用日なども考慮していかなければならない。それぞれの年齢の親子が利用しやすい環境作りを行う。

＜親カフェ＞　母親たちの声を反映させる事業やサービスの提供を行っていく。又、親カフェならではの親教育を行いながら、要求がエスカレートしすぎないよう、子育て、家庭生活のスタンダードというものを知らせていく。

＜一時預かり＞今の湯沢町の子育ては、入園か家庭保育かの2択になっている。短期間やシーズン就労等、中間の保育を提供し、母親が心に余裕を持って子育て出来るサポート体制の強化が必要だ。

【おわりに】

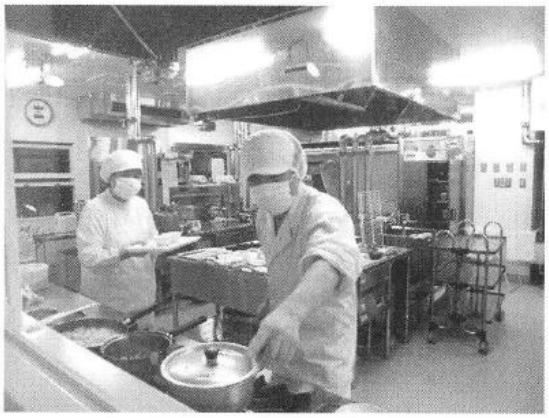
昨今の子育て事情は大きな変化を遂げている。「当たり前」という言葉が無くなっているのではないかと思うほど、様々な家庭、親子、子育てがあることを実感している。それぞれの家庭、親子、子育てを受容し、より沿って行くことは大切だが、いわゆる当たり前・スタンダードという事もしっかりと伝えていかなければいけないと思う。

現在の母親像を的確に捉え、そのニーズに沿った支援、広場事業であることは勿論だが、子どもたちの発達を促す活動をとりいれ、関わり方やその意味を伝えていく必要があることを強く感じた。やって見せて自然に学ぶ時代ではないのかもしれない。今後は、様々な関連機関との連携、新しい展開を考えていかなければいけない。

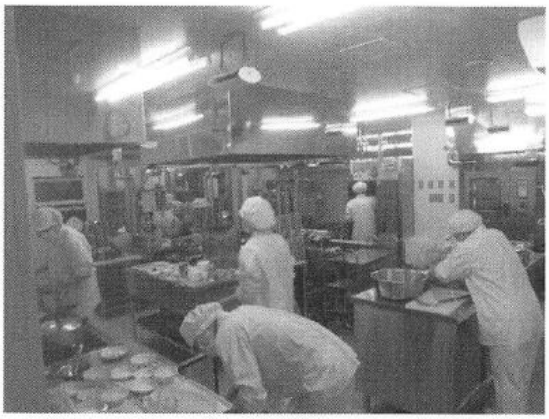
子育て支援センターでは毎日違う役割があり、その都度、頭と心を切り替えていかなければいけない。毎日違う“わたし”なのだ。それぞれの役割に適した“わたし”になれるよう、様々なスキルを身に着け、柔軟な心を持って日々様々な親子と関わっていきたい。

調理員

離乳食の調理を担当中です

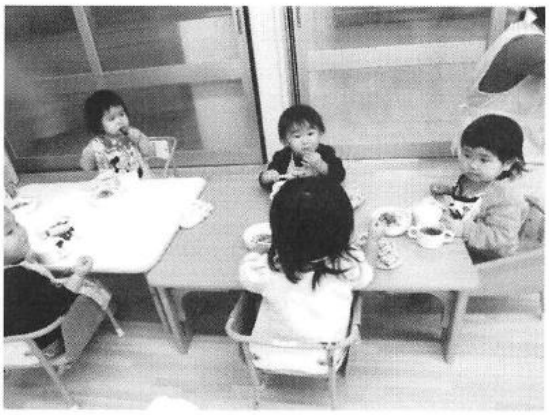


調理員６名が、園児と職員のために心のこもった
美味しい給食を作ってくれています



AM11:15 前後に、離乳食・アレルギー対応食
普通食が完成します
検食後に子どもたちに提供します

０歳児の食事の様子



美味しい給食いつもありがとう

１歳児の食事の様子

たくさん食べて大きくなります

離乳食・アレルギー食を安全においしく

角　谷　静　子

＜はじめに＞

４月から認定こども園が開園となり、給食も５日から始まり、園児１８８人でスタートした。２７年度に調理員が器具等の使い方に慣れる為に３回の試食会をした。主食も提供するようになり始めはなかなか思ったように出来なかった。

開園前から６人の調理員がどのような配置で動くかを話し合い検討した結果、時間までに子ども達に美味しい給食を提供することができている。

近年の家庭状況として核家族世帯も多くなり、共稼ぎ世帯が多くなる中で、０歳児からこども園に預ける家族が多くなったこととアレルギーの子も多くなっている。

離乳食の場合は、１０ヶ月頃から提供している。舌でつぶせる硬さ→歯茎でつぶせる硬さ→歯茎で噛める硬さへと変わる。味は薄味でかつお節を使用し食材そのものの美味しさを提供している。

今年度は卵アレルギーが多い。離乳食を作りアレルギー食を間違えずに作らなければならないので毎日気を引き締めて調理をしている。

★栄養士・調理員の役割

＜カミカミ期（９～１１カ月頃）・パクパク期（１才～１才６カ月頃）の対応＞

・栄養士が、離乳食の実施献立を作成する。
・保護者に家庭で食べたことの無い食材のチェックをお願いする。
・保護者の印を確認し、園長→担任→調理員とチェックを確認する。
・食べたことの無い食材を家庭で食べてもらうように、担任が保護者にお願いする。
・チェックした献立をもとに園長・担任・保護者・栄養士・調理員が面談をする。
　（保護者に食材の味を生かしたものを使っていること・薄味にしていることや化学調味料は使用しない等を伝える。）
・日誌を書く→調理をする。

＜アレルギー児の対応＞

・栄養士が個々にあったアレルギー児の予定実施献立を作成する。
・保護者にアレルギーの確認とチェックをお願いする。
・チェックの印を園長・担任・調理員が再度確認する。
・調理員が当番で毎朝、朝礼にてアレルギー児の説明をする。
・日誌を書く→調理をする。

≪今年度　アレルギー除去状況≫

A児	４歳児	卵・えんどう科・いんげん科・ナッツ類
B児	２歳児	卵
C児	２歳児	卵・山芋・カシューナッツ・くるみ・アーモンド ピーナッツ・いくら・たらこ
D児	１歳児	卵・トマト・トマトケチャップ・カレールー・ソース
E児	１歳児	卵

＊卵は、二次加工も提供しない。
＊Ｂ児→家庭の事情により１２月２２日をもって退園
＊Ｃ児→医者の診断書の結果１１月１日より卵が解除になった。

★実践と様子
≪12 月 22 日・献立（クリスマス行事）≫

	カミカミ期	パクパク期	普通食	アレルギー児
Ａ・Ｍ	牛乳・ベビー菓子	牛乳・ベビー菓子	ゼリー	ゼリー
主食	ピラフ	ピラフ	ピラフ	ピラフ ベーコン除去
主菜	ミートボール （和風ミートボール）	ミートボール （和風ミートボール）	ミートボール	ミートボール 卵除去・ケチャップ
汁	卵スープ	卵スープ	卵スープ	卵スープ 卵除去
Ｐ・Ｍ	牛乳 ベビー菓子	牛乳 ベビー菓子	牛乳 ショート ケーキ	牛乳 ショートケーキ 卵除去

＊離乳食（カミカミ期・パクパク期）
・米をとぐ
・Ａ・Ｍのおやつ準備
・だしをとる。にんじんスティックを作る。
・ピラフ・ミートボール・卵スープを作る。
（カミカミ期・パクパク期の出来上がりの味を付け盛り付ける）
・後片づけ
・Ｐ・Ｍのおやつ準備

＊アレルギー児
・Ａ・Ｍのおやつ準備
・ピラフは、ベーコンを除去し調理し盛り付ける
・ミートボールは、卵を除去し調理し盛り付ける
たれは、Ｄ児は、トマトケチャップが除去の為和風のたれを作る。
・卵スープは、卵を除去し調理し盛り付ける。
・後片づけ
・Ｐ・Ｍのおやつ準備

・ショートケーキは市販のものを用意する。但し卵が入って入る為卵除去の園児は卵の入っていないショートケーキを用意した。
・カミカミ期・パクパク期の献立は一緒であるが、味つけは少しずつ違ったものである。
・カミカミ期は軟飯にピラフの具材を入れて作る。パクパク期はご飯にピラフの具材を入れ作る。
・ミートボール→離乳食は一緒であるが、和風たれが違う。Ｄ児の和風たれも違う。ここで三種類のたれを作ることになる。
・昼食は、全品がアレルギー食の除去であった。離乳食・アレルギー食を一緒に作るのだが、間違えずに時間内に提供することが出来た。

＜終わりに＞

最初は、昨年度の調理器具・書類の片付け、新年度の発注書・書類の作成で大変な日々であった。しかし９月からこども園に管理栄養士が入ることになり、調理員がやっていた発注・日誌等を栄養士にお願いすることにより、作ることに専念できるようになった。

園児の人数も多いなか、これからも食の安全性を十分に注意して美味しい給食を提供していきたいと思う。

新しい給食室

角谷初美

〈はじめに〉

認定こども園としてスタートしてから一年が経とうとしている。幼い子どもたちのために統合後も自園給食が続けられたことを嬉しく思っている。乳児から受け入れるので、ミルクを飲んでいる子、離乳食(後期・完了期)、アレルギー除去食、普通食とさなざまな食事形態にあわせて調理をしている。こども園になって大きく変わったことが３つある。これまで各家庭で用意してもらっていた主食のご飯を提供するようになったこと。衛生管理を徹底するために厨房を検収室・下処理室・食品保管室・前室・調理室・配膳室・洗浄室に分けた構造になったこと。大量調理ができるように新しい機械が設置されたことが挙げられる。

〈主食のご飯を提供する〉

・未満児…４ｋｇ　１釜（２月の時点）

・以上児…５ｋｇ　２釜

米を計量して自動洗米機に入れる（水の量は自動計量されるが未満児用には加水している）

洗米された米を炊飯器にセットし浸水してから炊く

ご飯を計量し保温ジャーに移し替える　（年齢別主食目標量×人数=ご飯量）

（未満児…３個・以上児…３個・一時保育他…４個）

〈作業ごとに部屋を区切った構造〉

各部屋の用途

・検収室　…業者から届く食材を受け取る搬入口

食材の数・消費期限・鮮度・包装の異常はないかなどを確認して納品時間・品温・室温を記入する。異常があれば返品・交換する。

・下処理室…食材の原材料を冷凍保存するため小袋に入れる（１品につき約５０ｇ）。

可食部だけを洗う（３槽にわかれた水槽で流水洗い３回)。

肉・魚は専用蓋つきバットに移し替えて冷蔵庫に保管する。

牛乳・ヨーグルトは専用かごに移し替えて冷蔵庫に保管する。

卵は流水洗いして専用ボールに割り入れて冷蔵庫に保管する。

菓子・調味料・干物・缶詰・冷凍食品は食品保管室にそれぞれ保管する。

・前室　…更衣室で白衣に着替え、ここから調理室用の靴に履き替え手洗いをして調理室に入る。

・調理室　…普通食・離乳食・アレルギー除去食を調理(盛り付け)する。

・配膳室　…クラス別ワゴン（１３台）に食器・トレー・主食・主菜・副菜・汁・果物を載せる。

・洗浄室　…調理・給食・おやつで使った器具や食器を洗い、乾燥機に保管する。

〈新しい調理機を使う〉

＊チラー　→熱い食品を急速に冷やすことができる。

例…ポテトサラダを作る時、蒸したてのじゃが芋を短時間で冷やすことはむずかしいが、チラーを使うと一回で全食分を約３０分で衛生的に冷やせる。

＊スチームコンベクション　→焼き物・煮物・蒸し物・炒め物などが短時間に大量調理できる。（スチコンと略す）

献立名	調理法	設定温度・時間
鮭の西京焼き 鶏肉の香味焼き 豚肉の生姜焼き	①魚・肉を調味料で味付けする ②①を天板に並べる ③余熱したスチコンに入れて焼く　（焼き工程）	200℃　8分
ハンバーグ	①ハンバーグの材料を混ぜて人数分に成形する ②①を天板に並べる ③余熱したスチコンに入れて焼く　（焼き工程）	220℃　10分
千草焼き	①鍋に卵以外の材料と調味料を入れて煮る ②天板に溶き卵と①を加えて混ぜる ③②を余熱したスチコンに入れて焼く　（焼き工程）	150℃　15分
鯖の味噌煮	①天板に魚を並べ、みそ・みりん・三温糖で作ったタレを注ぎ生姜の薄切りを散らす ②①に蓋をして余熱したスチコンに入れて煮る　（煮込み）	150℃　18分
卵の袋煮	①油揚げを半分に切り、袋状にした中に卵を入れる ②①の口をスパゲティで止めて、天板に並べる ③だし汁・しょう油・三温糖・酒でつくった煮汁を注ぐ ④③に蓋をして余熱したスチコンに入れて煮る　（煮込み）	150℃　15分
切り干し大根煮 五目煮 切り昆布煮	①天板に材料とだし汁を入れて蒸し煮する　（蒸し工程） ②①を取り出し三温糖・しょう油・酒を加える ③②を余熱したスチコンに入れセットして煮込む　（煮込み）	100℃　10分 150℃　25分
大学芋	①さつま芋を乱切りにし、水にさらす ②①にサラダ油・三温糖をからめて加熱する　（揚げ工程） ③天板を取り出し黒みつを回しかけてさつま芋にからめるように混ぜ合わせ乾燥焼きする　（たれ焼き工程）	200℃　10分 220℃　5分
フレンチトースト	① 牛乳・三温糖・卵を混ぜた卵液を作る ②天板にバターを塗り食パンを並べる ③②に①を流し入れて焼く　（焼き工程）	240℃　6分
蒸しパン	①ボールにホットケーキミックス・牛乳・卵を入れ混ぜあわせ生地を作る ②天板にアルミケースを並べて生地を注ぐ ③②を余熱したスチコンに入れて蒸す　（蒸し工程）	100℃　13分

＊設定温度と時間はめやすなのでで き具合を見ながら設定変更をしている

〈まとめ〉

今まで、焼き物はホットプレート・煮物は回転釜・揚げ物は揚げ鍋・蒸し物は蒸し器でと、献立によって器具を使い分けて調理していた。今ではスチコンを使い、煮る・焼く・蒸す・炒めるなどを大量に調理することが可能になり、手作り給食を時間内に提供できている。また作業室を扉で完全に区切り、各部屋ごとに手洗い場を設けたことで衛生的に作業ができるようになった。さらに、以前から要望していた園専属の管理栄養士が配置されたことで、私たちは安心して調理に専念できるようになった。これからも全員で協力し合い、より良い給食を提供して行きたいと思う。

大量調理に変わって

小宮山康子

＜はじめに＞

湯沢認定こども園が開園して１０か月が過ぎました。２９年１月現在以上児 139 名、未満児６１名、職員５１名、計２５１名の給食を作っています。昨年まで８０食分の給食を作っていたのと全く異なり、一人一人の仕事量の多さ、一つの作業に掛かる時間、食材の量の多さに戸惑いながら調理員６人と栄養士とで協力し合いやってきました。毎日試行錯誤を繰り返しながら今日まで大きな事故なく安全に給食が提供出来ています。今までとは違った作業の動きや大量調理だからこそ行うことを挙げてみました。

＜下処理室＞　　２名で担当

業者から食材を受け取り野菜の品質、数量、温度を確認します。野菜や果物の下洗いや皮むきをします。食材に傷みがないかチェックし、葉物野菜は１枚ずつバラバラにし土汚れや虫が付着していないか確認しながら３層シンクで丁寧に３回洗います。

＜調理室＞　　主菜、副菜、汁　　各１名ずつ担当

下処理で洗浄された野菜を、献立に合わせ様々な形や長さに包丁で手切りします。サラダや和え物の野菜は下茹でし冷却します。揚げ物はフライヤーで揚げますが物の大きさにより違いますが、1 回に 15 個～20 個位しか入らないので 1 時間 30 分位揚げています。温かいものはなるべく温かいまま提供したいのですが時間がかかり最初に揚げたものはどうしても冷めてしまうのが残念です。

今までの調理室になかったもので、スチームコンベクションオーブンを設置してもらいました。この機械ひとつで「焼く」「蒸す」「煮る」「炒める」ことができ一度に大量調理が可能です。今まではホットプレートで肉・魚を焼いていました。何度も蓋を開けては様子を見て、中心温度を計り焦げ付かないよう温度を調節するためその場から離れることができなく大変でした。しかしこのスチームコンベクションは焼きムラも少なく湿度も高くなるので、食材から水分が抜けて縮んでしまったり表面が乾いて固くなってしまうことがないので美味しく出来ます。調理している間他の仕事も取り掛かれる為時間も有効に使え効率的です。

もう一つ新しく設置したものに自動洗米炊飯機があり毎日米１４キロ（約９升）を炊いています。米は地元のコシヒカリで強化米入りです。米を計り機械に入れると自動で洗い炊いてくれます。炊けたご飯はクラスごとに保温ジャーに入れるので温かいご飯が提供できます。温かいご飯が食べられるのはとても幸せなことだと思います。子ども達も冷たいご飯より温かいご飯の方が食べやすし美味しいです。実際に昨年度よりご飯調べの結果（年２回平均量を計っている）ご飯の量の平均が増えていました。

＜配膳室、洗浄室＞

配膳はクラスごとにワゴンの上に食器、トレー、箸、盛り付け用食具を準備します。ワゴンは、１２台。全部揃えるだけで３０分は掛かります。洗浄機は今までより一回り大きく蓋が重く片手で持ち上がらないので力が必要です。下洗いして洗浄機にかけないと汚れが綺麗に落ちにくいため手

洗いは必要です。午前中は調理に使用した食具など、午後からは食器、食缶などを洗浄します。食器は一人につき皿２枚、ご飯椀１つ、汁椀１つで４枚×約２５０人＝１０００枚。その他に各クラス分の食缶、食具、トレー等の洗浄に１時間３０分はかかります。その後食器乾燥保管庫にクラスごとに数え分け入れ消毒、乾燥します。

＜おわりに＞

一日の業務が終わると翌日の献立を確認し作業手順を打ち合わせします。食材の量が今までの３倍の量になりひとつひとつの作業に時間が掛かります。いかに効率よく作業ができるか話し合い自分がその日担当する仕事をもう一度イメージしながら仕事の流れを確認します。以前は２人で話合っていた事が今は６人の意見があり「こうしよう、でももっとこうすれば良いんじゃないか」と毎日意見を交わしながらやることが出来ます。大量な野菜を何度も洗っても時にゴミ、虫が紛れてしまうことがあります。完璧とはいきませんが常に意識し緊張し取り組む事で大きな事故を防ぐ事に繋がります。今までできていたことが統合になり難しくなることもあります。子ども達と触れ合う機会も少なくなり、窓越しで見てもらいたい調理室でしたが窓が高くて子ども達には見ることが出来ないのが残念です。「保育園の給食はおいしい！」と子ども達が言ってくれるように、また衛生面には細心の注意を払い安全で安心な給食をこれからも提供していきたいです。

こども園のスタート

腰越　学

＜はじめに＞

数年前から保育園職員皆で協力しながら開園準備を進めてきた。そして、いよいよ本年度より湯沢認定こども園がスタートした。私たち調理員は、何度も集まり調理室のレイアウトを検討、要望し続けた。その調理室がようやく出来上り各保育園より持ち寄った調理用具や食器などと、調理台やガス台を洗浄・殺菌して４月５日の給食提供開始に向けて準備を進めた。

調理員は正職４名、臨時職員２名の６名体制になった。まったく初めての場所なので大変不安を抱えながらの調理開始となった。

＜業務体制＞

◇主菜、主食担当、副菜担当、汁担当、離乳食・アレルギー食担当、下処理担当に分かれて作業を進めることとした。

Ａ．Ｍ

☆主菜、主食担当　→　・朝一番で米をとぎ釜にセットする。
・食材をカットし主菜を調理し完成させる。

☆副菜担当　→　食材をカット、茹でる等して副菜を完成させる。

☆汁担当　→　食材をカット、汁の具を煮て完成させる。

☆離乳食・アレルギー担当　→　離乳食と同時にアレルギー食を担当する。朝礼に出席する。

☆下処理（２名）　→　・食材の納品されたものを受け取り検収する。
・野菜等の下処理が終了次第調理室に入り、果物がある場合カット等を担当し、同時に食器の準備も行う。
・炊けたご飯を各年齢ごとに分ける。

Ｐ．Ｍ

主菜担当　・　副菜担当　・　離乳食、アレルギー担当者

⇒　・おやつを担当し３名で協力しながら準備する。
・調理室の作業台や道具を拭いて殺菌消毒をして衛生面に気をつける。

汁担当　・　下処理担当

⇒　汁、下処理担当の３名は洗い場を担当し、食器・バット等の洗浄を担当する。

＜離乳食対応＞

□離乳食での思い

・食材の本来の味を生かした料理を食べることで豊かな味覚を育てる。
・安心できる離乳食で健康に発育してもらいたいという願いをもつ。

□調理の配慮点

・なるべくこどもの発達に応じた離乳食を提供。
・食材はなるべく新鮮な物を使用し、離乳食の形態に見合った食材を使用。
・食品は十分に火を通し適度な固さにする。
・栄養士、保育士と連携をとりながら進めていく。

離乳後期（カミカミ期）　→汁＋１品（果物）
離乳完了期（パクパク期）　→汁＋主菜＋副菜（果物）

＜アレルギー食対応＞

□アレルギー食への思い

・アレルギー対応は最悪死に至る場合もある。ミスは絶対にあってはいけないのでアレルギーマニアル（湯沢認定こども園用）に沿って進めてきた。
・正職の調理員４人の一週間交代で担当する。

□アレルギー対応の流れ

・担当者が除去の献立を確認して朝礼で知らせ、職員全員が把握できるようにする。
・担当者はその日の調理手順を確認して、調理前の覧にチェックする。
・料理完成後、もう一度確認しアレルギー食専用のトレーと食器を使い、盛り付けする。
・点検表に提供前のチェックを入れ、検食の場所へ持っていく。
・園長に検食してもらい、口頭で本日の除去したものを伝え確認してもらう。
・担任保育士に食べる前に献立を確認してもらい、点検表にチェックを入れてからこどもに給食を提供する。

＜おわりに＞

まるで初めての施設で、不安をかかえてのスタートとなった。もうすぐ一年が終ろうとしているが、大量調理も初めてで使用したことのない調理器具もありイメージ通りにならない事もあった。２度３度と数をこなして早く自分のものにしていきたい。

今年度は、クラスに行って食べている子どもの様子や感想などを聞き触れ合う機会がほとんどなく、食育は直接的にはできなかったと思う。一つだけでも出来ればよかったと思う。子どもに食べることについて楽しいと思えるようになってもらえる様に、保育士、栄養士と一緒に取り組んでいき、健康に育ってもらえるように心を込めて調理していきたいと思う。

来年度は、今年度の足りなかった所、ダメだった所をもう一度皆で検討して、なるべくよい状態にして、無駄をなくしスムーズな動きでできるようにしていきたい。

おわりに

今年度は、湯沢町の保育園4園を統合し湯沢認定こども園になり、園児188人、職員51人でスタートしました。

子ども達が新しい環境に慣れ元気に過ごすことができるように、職員全員で協力してきました。もうすぐ開園から1年になりますが、大きな事故もなく、子ども達は元気に保育園生活を楽しんでいます。

今年度から延長保育は朝7：30から最長19：00までになりました。土曜日だけでなく日曜、祝日の希望保育も始めました。

これからも私たちは、子ども達の最善の利益を考えながら、保護者への支援や子育てネットワークの中心としての役割等を担い、保育内容を高めるよう努力して参りたいと考えております。

新しい環境の下で、今年度もそれぞれの保育士、調理員が日々の保育、調理を実践してきました。それを「実践集」としてまとめ、綴りました。